

# あらた同窓會

令和8年 あらた同窓会報

令和8年3月25日発行

鹿児島大学農学部  
あらた同窓会

電話 099-285-8537

振替口座 02010-2-876



城山展望台から見た桜島と鹿児島市街地（2025年12月7日 下古立 正美氏撮影）

## 令和7年度会費納付のお願い

(会計年度：2025年10月1日から2026年9月30日)

鹿児島大学農学部、鹿児島農林専門学校および鹿児島高等農林学校の卒業生で組織される「鹿児島大学農学部あらた同窓会」（現在まで2万人を超える卒業生を輩出し、それぞれが国内外で活躍しています）の運営は会員各位の通常年会費をはじめ、新入生（学生会員）が納付する入会金と会費などを主な財源としています。

本会は、農学部と協力・連携しながら、「母校の活性化や在学生への支援を行う」、「地域支部会やクラス会などに極力出席する」等に加えて、会報の発行と頒布を通じて「農学部と同窓会の近況や地域支部会、クラス会の情報などを会員にお伝えする」とともに「会員相互の交流と親睦を図っていく」こと等の活動を行っております。

開学以来、母校が115年以上築き上げてきた「あらたの輝かしい伝統」を次世代に伝承して行くためにも、同窓会活動に対するご理解並びに積極的な参加と協力を賜りますようお願い申し上げますとともに年会費の納入にご協力をお願い申し上げます。

**年会費は2,000円です。同封の振込用紙（コンビニまたは郵便局）をご利用ください。**

## 賛助金（寄付）のお願い

### — あらた同窓会活動の強化・発展を目指して —

あらた同窓会活動は会員の皆様からの年会費で賄われていますが、その納入率は極めて低く（会員総数の5～6%）、同窓会の財政基盤は脆弱です。平成28年度から、「賛助金（寄付）」のご寄付をお願いしております。これまでも多額の賛助金（寄付）をいただきました（昨年度の賛助金・寄付者名簿は41ページ）。心より感謝申し上げます。

「あらた同窓会」としては、これまで実施してきた、年次総会・懇親会の開催、会報発行、支部活動との連携、卒業・修了祝賀会および新入生茶話会（学部との共催）に加え、新たな活動として、将来長くあらた同窓会の担い手として期待される学生会員（在学生）に対して、キャリア形成支援、（再）就職支援、表彰、経済的支援などの支援活動を強化することを進めて参りたいと思います。

つきましては、これら新しい活動の原資として、改めて正会員の皆様に広く、「賛助金（寄付）」をお願いすることにいたしました。日頃から同窓会運営に多大なご協力をいただいている皆様をお願いすることは甚だ忍びないことではありますが、上記の目的にご理解をいただき、ご賛同いただきますようお願い申し上げます。

ご賛同いただける方は、額はいくらかでも結構ですので、本誌同封の振込用紙（年会費用、賛助金用のいずれでも可）をご利用のうえ、郵便局からお振込くださいますようお願い申し上げます。（振替口座 02010-2-876、振込手数料は不要です。）

## 事務局案内【事務局執務体制】

執務日：月、水、金曜日 10：00～16：00

TEL・FAX：099-285-8537

E-mail: aratakai@aratadousokai.org

ホームページ：https://aratadousokai.org/

住所：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24



## 目 次

## 1. 会長挨拶

ご挨拶 .....あらた同窓会長 下川 悦郎 3

## 2. 学部長挨拶

卒業、修了おめでとうございます .....農学部長 山本 雅史 4

## 3. 追悼文

八幡正則先輩と「あらた同窓会」 .....富永 茂人 5

## 4. 定年退職者等挨拶

退職にあたって .....岡本 繁久 6

私が大学の教員になった経緯（いきさつ） .....樗木 直也 7

焼酎学と共に20年 .....玉置 尚徳 8

## 5. 特別寄稿

新任「学生幹事」のご紹介 .....花城 勲 9

令和6年度農学部・農林水産学研究科 卒業・修了祝賀会、令和7年度新入生茶話会、  
父母等のつどい報告 .....富永 茂人 10

「あらた同窓会令和7年度総会および懇親会」を盛大に開催しました .....富永 茂人 11

田浦悟教授の退職祝賀会が開催されました .....牧野 伸洋 11

## 6. 支部・職域・クラス会・グループ便り

「あらた関東化友会」近況報告 .....飯尾 鉄臣 12

令和7年度関西あらた会総会・懇親会報告 .....秋吉 博之 13

広島あらた同窓会支部便り .....辻野 聡 14

令和7年度佐賀あらた同窓会総会及び懇親会を開催しました .....森 敬亮 15

令和7年「宮崎あらた会」を5年ぶりに開催しました .....荒武 正則・花田 広 15

世代をつなぐ熊本あらた会（熊本あらた会支部だより） .....北村 勇 16

あらた同窓会鹿児島支部の会員職場の紹介（鹿児島県立農業大学校） .....田中 重行・樋口 真一 17

あらた同窓会鹿児島市役所支部総会、懇親会報告 .....脇 建二 18

「おせんしの育珍会」を開催しました .....田浦 悟 18

「園芸学科果樹園芸学研究室昭和59年卒業生の集まり（第4回）」 .....新堂 高広 19

## 7. 会員からの寄稿（エッセイなど）

音楽ボランティア活動の20年 .....所崎 旦 19

昭和46年卒農学科（農学専攻）同窓会 .....藤岡 悦治 21

『70歳の手習い』 .....永井 定明 22

私にとっての鹿児島大学 .....花田 広 23

オールドルーキー新米蜂屋の1年 .....吉井 健一郎 23

「研究室仲間との大人修学旅行vol.2 宮崎編」 .....瀧川（犬童）憲洋 25

アフリカ大陸最高峰・キリマンジャロ山行記 .....栗之丸 隆太郎 26

## 8. 学生便り

## 【ビバキャンパスライフおよび留学体験記】

奄美大島での7日間 .....服部 匠真・縄田 直季 27

4年間を振り返って .....	新宅 水織	27
部活を通して感じたこと .....	佐伯 憲汰	28
サッカーが教えてくれたこと .....	里山 昂大	28
インターンシップを通しての成長 .....	茶菌 佳果	29
インターンシップ体験記 .....	道添 晴美	29
雑多で鮮やかなキャンパスライフ .....	新川 茉和	30
芽生えた関心がアフリカ研究へ繋がるまで .....	廣瀬 由佳	30
世界へ踏み出したキャンパスライフ .....	三浦 明久梨	31
「海外インターンシップ」海外開発プロジェクトの最前線を体験して .....	岩田 知起	31
「留学体験記」笑いあり涙ありのハワイ留学 .....	櫛山 莉奈	32
「留学体験記」台湾研究留学で広がった学びと出会い .....	三浦 菜名穂	32
<b>【卒業・修了にあたって】</b>		
出会いは成長の「タネ」 .....	上川 夏未	33
学生期間の貴重な体験 .....	宗像 大和	34
未来はきっと答えをくれる .....	楊 又匯靈	34
ありがとう、そしてこれからも .....	山田 凜	35
鹿児島での4年間 .....	大川 航征	35
鹿児島大学でよかった .....	清水 浩貴	36
卒業にあたって .....	坂本 來那	36
<b>9. 恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報</b> .....	事務局	37
<b>10. 本部便り</b> .....	事務局	38
<b>11. 役員名簿</b> .....	事務局	42
<b>12. 会計報告</b> .....	事務局	42
<b>13. 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則</b> .....	事務局	45
<b>14. 編集後記</b> .....	富永 茂人	

## 会長挨拶

## ご挨拶



鹿児島大学農学部あらた同窓会

会長 下川 悦郎

(林S 44 卒)

会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。かねてよりあらた同窓会の活動にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

あらた同窓会は大正9年(1920)の結成以来令和7年(2025)で105周年を迎えました。同窓会結成には、母校鹿児島高等農林学校開校10周年記念事業の実施と大学への昇格運動が契機になったとされています。同窓会の名称は「荒田」の地名と「新(あらた)」を掛けてひらがな表記で「あらた」と命名されたと聞いています。大正9年12月には会員名簿が発行され、同窓会活動が始まりました。母校は昭和19年(1944)鹿児島農林専門学校に改称し、さらに昭和24年(1949)には学制改革に伴い鹿児島大学農学部として新制大学に昇格しましたが、同窓会は高等農林学校同窓会と農林専門学校同窓会の伝統を受け継いできました。当初結成時の設置目的に沿って、様々な活動を展開し今日に至っています。その間、財政運営など困難な問題に遭遇したこともありました。令和元年(2019)末から足掛け5年間にわたって猛威を振るった新型コロナ禍では、同窓会活動は会誌発行など一部の業務を除いて大きな制約を受け中止や縮小を余儀なくされました。令和5年(2023)5月の新型コロナ終息宣言後、同窓会はようやくコロナ禍前の活動を取り戻しつつあり、一部の業務(キャリア形成のための在学生向け講演会の開催)を除いて、会報の発行や本部・支部間の交流、卒業祝賀会、新入生オリエンテーションなど通年の事業に取り組むことができるようになりました。

とはいえ改善しなければならない課題があります。その一つは同窓会の財政運営です。同窓会活動は会員の皆様から納めていただく年会費(2千円)で賄われていますが、納入率が低い数値(会員総数の5~6パーセント)で推移していることです。このため同窓会の財政基盤は脆弱で、コロナ禍事業の中止や縮小で生じた繰越金と会費免除会員・賛助会員からの賛助金(寄付金)などを充てることでようやく収支バランスが取れている状態にあります。会費納入率を少しでも上げるために、改めて会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

同窓会活動を活性化するために運営の改善が求められています。まず取り組んできたのが、学生幹事制の導入です。現在在学生は入学と同時に学生会員として同窓会に入会することになっていますが、これまで同窓会の運営に学生会員の意見を反映させる仕組みがありませんでした。令和7年度の総会で学生幹事を設ける同窓会規約の改正案が承認され、すでに学生幹事が選出されています。学生幹事は学内幹事会の構成員として会議に出席し同窓会の運営に参画することになります。斬新な視点で会報編集や在学生向け講演会の企画・立案などに積極的に加わってほしいと願っています。

もう一つ挙げておきます。それは学内幹事会の強化です。学内幹事会は総会及び評議員会に付議する議案書の作成、年間活動計画の策定・執行、母校(農学部)と共同あるいは協力で実施する事業の調整など同窓会運営の要の位置にあります。ところが同窓会会員教員の減少で組織を構成する学内幹事の選出が困難になっているのです。この状況を改善することが喫緊の課題になっています。

以上、同窓会の現状について率直に述べさせていただきました。本年度も引き続きこうした課題の改善に取り組みながら同窓会活動を進めたいと考えています。会員の皆様のご理解とご支援よろしく申し上げます。

**学部長挨拶****卒業、修了おめでとうございます**

農学部長 山本 雅史

令和7年度鹿児島大学農学部卒業生並びに農林水産学研究科の修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。皆さんにとって、鹿児島大学での2年、4年あるいは6年間の充実したものであったことを願っています。教職員を代表して無事に卒業・修了され、新しい門出を迎えられることを心から祝福いたします。また、この日を迎えるまでの保護者の皆様の温かいご支援、友人や先輩・後輩、周囲の皆様の力添えへの感謝の気持ちを忘れないようにしてください。

皆さんの多くは、これからそれぞれの道に進み、新たな環境での生活が始まるものと思います。社会では、近年、様々な課題が発生しており、従来の常識や方法が通用しない世の中となって来つつあります。我が国では少子高齢化により労働力が減少し、中でも農業従事者の減少は著しいものがあります。さらに、気候変動や地球温暖化なども含めて、安定した農業生産が脅かされています。さらに、海外に目を向けると各地で紛争が発生しており、「平和な社会」を構築し、維持することの困難さを痛感します。皆さんの中には激変する社会に不安を感じている方もいるかも知れませんが、社会の要請をしっかりと受け止め、社会に必要とされる人物になって欲しいと願っています。

農学部・農林水産学研究科での学びは、このような将来の見通せない社会において大きな力となるものと思います。皆さんは卒業論文や修士論文の研究などを通じて、情報収集、研究実施、データ整理、プレゼンテーション、論文作成にあたって、厳しい指導を受けたり、大いに悩んだものと思います。それを乗り越えての卒業・修了となります。自分では気づいていないかもしれませんが、皆さんには自分で考え、行動する力が備わっているはずです。

ただし、人間一人ですることは限られています。皆さんは一人ではありません。鹿児島大学農学部は前身の鹿児島高等農林学校から120年近い歴史を有しており、各地で卒業・修了生が活躍しています。何か困ったことがあれば、「あらた同窓会」の先輩方は支援をしてくれるはずです。皆さんが成長したら、次の後輩へ手を差し伸べてください。そうしたつながりは貴重な財産です。

卒業・修了後も健康を大切に、周囲の方への感謝を忘れないで、前を向いて歩いていってください。鹿児島大学農学部・農林水産学研究科で学んだ皆さんの飛躍と活躍を期待してやみません。



農学部ロゴマーク



令和6年度鹿児島大学卒業式（令和7年3月25日、鹿児島県総合体育センター体育館）

## 追悼文

## 八幡正則先輩と「あらた同窓会」

あらた同窓会常任副会長 富永 茂人  
(園S 48 卒)



令和7年度農学部卒業祝賀会での八幡正則先輩

令和7年11月8日の朝刊をみて驚愕いたしました。私たち鹿児島大学農学部の前身・鹿児島高等農林専門学校を昭和26年(1951年)に卒業された八幡正則大先輩が95歳で亡くなったという記事でした。

1930年に南九州市川辺町(旧勝目村)で生まれた八幡先輩は旧制鹿児島高等農林専門学校を卒業後「農業協同組合運動」を志し、県指導農協連合会(現・鹿児島県農業協同組合中央会)に入り、総合対策部長などを歴任されました。その後、鹿児島県信連では、不適正融資で経営破綻した鹿児島市農協の再建にあたり、参事や常務理事を務められ、農業協同組合という視点から鹿児島県農業に大いに貢献されてきました。退職後も、県政100人委員、母校鹿児島大学の非常勤講師などを歴任され、その他、焼酎の魅力を発信する「焼酎文化いもづるの会」や、生産者と消費者が食糧問題や食生活について考える「かごしまの食を語る会」の中心的な存在として鹿児島県の農業・食文化、地域の食産業発展に多角的に取り組んでこられ、鹿児島県だけでなく日本農業協同組合運動のオピニオンリーダーとして活躍され、平成15年には第25回農協人文化賞を受賞されました。

農協勤務時代の活躍についてはエピソードも交え、多くの著書の中の一冊『人は他人仲 稲は田中：南斗六星子物語』(右写真)に記載されています。20歳年長の大先輩である八幡さんから直接お聞きしその本を読んで、ミカン農家の長男で鹿児島大学農学部で果樹園芸を専攻した私にとっては、1970年代から80年代にかけての「鹿児島みかんの沖縄への輸出」のことが最も印象的でした。それは、当時経済連の果樹園芸課長であった八幡さんが戦後の混乱期以降途絶えかけていた鹿児島から沖縄へのみかん流通(当時は本土復帰前後を含め、県外供給を輸出貿易と呼ぶ向きもありました)の近代化を主導され、「沖縄みかん貿易」の再生に大きく貢献されましたが、大変苦勞されたということです。具体的なエピソードとして、沖縄県在住の各界で活躍されている鹿児島高農の卒業生(あらた同窓生)の方々との「人と人とのつながり」で鹿児島のミカンを沖縄へ送り出す販路が確保・拡大できたようで、「あらた同窓会員」としての人のつながりの重要性を強調されています。

このように、母校・鹿児島大学農学部に対する愛着も強く、「鹿児島大学農学部あらた同窓会」が関係する催しごと(総会・懇親会、卒業祝賀会)には必ず駆けつけてくださり、同輩・後輩の分け隔てなく付き合ってくださいました。

筆者が最初にお会いしたのは鹿児島大学農学部創立100周年記念祝賀会でした。その時、八幡先輩は80歳でしたが、鹿児島高等農林学校の徽章入りの白装束・鉢巻姿できりりとした声で校歌斉唱の掛け声をかけていただきました(写真1)。

そして、農学部とあらた同窓会共催の「農学部卒業祝賀会」では毎回ご出席いただき、後輩たちへの叱咤激励の「ご挨拶」と「鹿児島高等農林学校校歌斉唱の掛け声」および「万歳三唱」を務めていただきました。そのご挨拶では大学卒業後に社会に出ていく後輩に心のコもった愛情あふれる檄を飛ばすことが名物であり、70歳前後も年齢が離れた後輩たちも「名物大先輩」である八幡先輩のお話を静かに聞いていたのがとても印象に残っています。かように、同窓生の繋がりを大切にする「あらた同窓会」にとっては象徴的な会員でした。

このような大先輩は、おそらく今後出てこれないかもしれません。私たちは八幡正則先輩のご冥福をお祈りしつつ、「鹿児島大学農学部あらた同窓会」の今後の発展に努力したいものです。



(写真1) 鹿児島大学農学部創立100周年記念祝賀会での八幡先輩(2010年11月23日)



農学部卒業祝賀会で後輩たちに愛情あふれる檄を飛ばす八幡先輩

## 定年退職者等挨拶

## 退職にあたって

植物資源科学プログラム

岡本 繁久



1997年の教養部解体に伴って農学部に移籍してこの3月で29年になる。農学部在籍時にお世話になった全ての教職員の皆様に心より感謝申し上げます。農学部移籍を決めた最大の理由は、連大の存在である。もう一つの移籍先候補の理学部には当時博士課程が無く、高度な教育研究を行うには農学部の環境がより優れているとの同僚教員のアドバイスに従って農学部にお世話になることを決めた。結果、その同僚教員と共に指導した連大生8名（外国人2名、日本人6名）の博士学位の取得に立ち会うことができた。私の大学生活における至福の出来事であり、農学部に対するささやかな貢献である。このことは農学部移籍が間違いでなかったことを示す証拠であり、誘ってくれた同僚教員をはじめとして助けていただいた方々に深く感謝申し上げます。

教育研究活動で悩んでいた時期に視聴したドラマに「しかたなかったと言うてはいかんのです」（NHK総合、2021年8月13日放送）がある。戦争が生んだ悲惨な事件を扱ったドラマで、主演は妻夫木聡さんと蒼井優さんである。掻い摘んで説明すると、第2次世界大戦末期の1945年に九大医学部で起きた米軍捕虜8名を生きのまま解剖した事件（九州大学生体解剖事件）を下地にしている。解剖を指揮した教授の自殺に伴い、鳥居助教授（妻夫木）が主導的な役割を果たした、つまり首謀者であると誤認され、死刑判決を受けて収監される。その後、妻・房子（蒼井）が減刑を求めて何度も九州から東京へ通う。妻の献身的な嘆願活動の甲斐あり、鳥居は収監10年目に釈放され、地元で町医者として過ごす。蒼井さんの演技が秀逸で、夫婦愛を感じられる素晴らしいドラマであった。ドラマの中で、鳥居が慟哭するように言うのが「しかたなかったと言うてはいかんのです」というタイトルと同じセリフである。振返って自分の人生はどうだったであろうか。「研究室のため」「学生のため」「家族のため」と様々な言い訳を持ち出して、本意でなくても上から言われた多くのことに従ってきたと記憶する。ドラマを観て自分が恥ずかしくなった。昨今、日本の教育の劣化・荒廃が叫ばれている。教養部時代も含め33年間も鹿大で教鞭をとった私は明らかに劣化・荒廃の加担者である。「しかたがない」としてきたことが加担の大きな要因だと思う。

今の大学には様々な役割が求められているが、大学の本務は「人を育てる」ことである。私の考える【人】とは自身で考え、判断し、そして発信できる人のことで、卒業後には社会の発展をけん引するリーダーになれる人材のことである。鹿大を含め、今の日本の大学はこの役割を十分に果たしているであろうか？残念ながら私はそう思わない。去る身の上で甚だ失礼なお願ひであるが、残る教員と職員の皆様には大学本来の理念に立ち返り、高等教育機関としての鹿児島大学農学部の発展を導いてほしい。また、学生さんたちには伝統ある農学部で学べることを誇りに思い、勉学やその他活動に勤しんでほしい。今後とも農学部から多くのリーダーが育ち、社会で活躍されることを願ひ、本稿を閉じる。長い間、お世話になりました。そして、ありがとうございました。

## 私が大学の教員になった経緯 (いきさつ)

農学科 植物資源科学プログラム

樗木 直也

(化S 58 卒)



平成3年の夏の終わり、9月の半ばの夕方だったと思う。そのころ鹿児島県農業試験場土壌肥料部に勤めていた私の所に、学生時代の恩師である堀口毅先生から、ちょっと研究室にきてくれないかとの電話があった。その頃独身だった私は、ひょっとしたら嫁さんでも世話してくれるんじゃないかと思いながら翌日の夕方、勤務が終わってから久しぶりに農学部3号館3階の肥料学研究室に出かけて行った。「話というのは他でもないが、樗木君、助手に来てくれんか。」というのが用件であった。諸事行き当たりばったりの私も、さすがに「少し考えさせてください。」と即答はできなかった。

その時私は31歳で、県職員としての2か所目の農業試験場に勤務して4年目だった。土壌肥料部には同じ研究室の先輩である池田健一郎さんや森田重則さん、同じ学科の先輩である松原弘一郎さん、市来征勝さん、上村幸廣さんなどがおられ、公私にわたって良くしてもらっていた。また前年には後輩の森清文さんや田布尾尚子さんが配属されて、鹿大農学部農芸化学科出身者が多かった。配属当初は県の農業試験場の研究とはどういうものかわからず、グループリーダーだった池田さんについてまわって見習いをし、この頃になって漸く自分で担当課題を段取りして進められるようになったばかりで、特段の研究業績などはもちろんなかった。またこの頃の農業試験場の研究員や現業職員（ほ場管理、栽培作業、調査の補助などをしてくれる正規雇用職員）は若い人が多く、勤務時間が終わるとソフトボールや軟式テニスなどで汗を流し、たびたびそのチームでの飲み会（合コンなども含む）もあり結構、楽しく生活していた。

そんなところに舞い込んできた転職話だった。県職員としては4月に主査研修を受けて、中堅職員の仲間入りをするような時期だった。それなりに充実していたと思う。ただ農業試験場勤務も4年目で慣れが出てきて、やや生活にマンネリも感じていた。飲み会の時などに土壌肥料部長だった市来さんに、生意気な口をきいたこともあったような気がする。ただ当時の私は大学の助手、ひいては教官（当時は国立大学で国家公務員だった）の仕事がどういふものか、全く知識もイメージもなかった。あまり考える材料もなく、何となく決めかねていた。そんな時、研究室の助教授だった稲永醇二先生の「大学の職員も県職員とおなじ公務員だから、あんまり考えることは無かろうもん。」という言葉に尻を押されて、「それでは、よろしくお願いします。」と返事をしてしまった。

このようないきさつでなった大学の教員である。正直、向いてなかったと思う（12月の学部忘年会の席で、熱帯作物学の坂上潤一先生に「今更それ、言います？」と言われてしまったが）。最大の問題は、研究に対する意識の低さだ。多くの先生方が持っておられるアカデミックな大きな研究テーマを設定することができなかった。最初は堀口先生に指示されて植物のカリウム吸収研究への<sup>42</sup>Kの応用をテーマに研究を行ったが、その後は県内のほ場で発生していたソラマメの「しみ症」に関する研究で博士の学位を取り、「わた腐れ症」の原因や対策も研究した。鹿児島市水道局との共同研究をきっかけに下水処理水を利用する流動水耕栽培を考案し、県の助成を受けたメタン発酵消化液の研究をきっかけに温暖な鹿児島県におけるエリアンサス栽培の研究を行った。このように大学で取り組んだ研究もほとんど場当たりの、現場対応的なテーマだった。（土壌科学の境雅夫先生は、「大学は県の試験場と同じような研究をしてはダメだ」というお話をされたことがあった。）

ただ大学の教員という立場は、県の職員よりは遥かに面白かったと思う。知的な好奇心が旺盛な先生方といろいろな話ができたし、とにかく多種多様な学生を見て、一部とは関わることができた（関わらねばならなかった？）。本質的に人間が好きらしい私には、この点は良かったのかも知れない。ただ法人化から20年が経過し、ますます多忙化する国立大学で、先生方や学生とじっくりコミュニケーションをとれる環境がなくなっていたのが残念だった。

## 焼酎学と共に20年



焼酎・発酵学教育研究センター

玉置 尚徳

私の鹿児島大学への赴任日は、2007年の3月16日（金）でした。しかし、前日の伊丹発－鹿児島行の最終便が鹿児島空港周辺強風のため着陸できず、関西国際空港に引き返したため、実際に辞令をいただいたのは、週明の3月19日（月）となり、なんだか出鼻をくじかれた思いでした。私は、学生時代、京都大学 農学部 食品工学科 微生物生産学研究室に所属し、修士、博士課程を経て学位を得ました。1991年4月からは、米国コーネル大学 医学部 生化学教室において博士研究員として約2年間研究を行い、1993年5月からは、帰国して出身研究室の助手に採用され、そこから十数年間、酵母に関する基礎研究を行いました。

2006年に、鹿児島大学 農学部に焼酎を研究する寄付講座「焼酎学講座」が設立されました。私は、5年で5億円のお金のプロジェクトのお金に目が眩み、焼酎学講座 醸造微生物学部門の准教授として鹿児島大学での研究を開始しました。焼酎学講座は、5年間のプロジェクトでしたが、研究のみならず学生の教育にも積極的に関わることになりました。本来配属されないはずの学生も2007年度からは、生物資源化学科の3年生の中から焼酎学講座の2つの研究室への配属が始まり、卒業論文、修士論文、博士論文の指導に関わりました。

それまでは、ほとんど研究（実験）しかしてこなかったため、鹿児島大学で教育に携わることになり、慣れないことで戸惑うことが多々ありました。共通教育の「焼酎」では、200名を超える学生さんの前での講義にたじろぎ、そのレポートの採点に3日を要したものでした。また、焼酎蔵に泊まり込んでの製造研修では慣れない肉体労働に疲れ果てたものです。当時は、新たに社会人教育の必要性が叫ばれたこともあり、焼酎学でも社会人修士の受け入れや、鹿児島ルネッサンスアカデミーにおける社会人教育にも携わることになりました。このように、地域に根差した焼酎を様々な角度から捉えて学問へと昇華する作業は、新鮮で楽しい経験でもありました。

寄付講座での5年はあっという間に過ぎましたが、各分野における活躍が評価され、2011年度からは、新たに農学部附属の施設、焼酎・発酵学教育研究センターとして新たなスタートを切って現在に至っています。今年、センターは焼酎学講座設立から数えて20周年を迎えることとなります。これまでに、およそ140名の卒業生、100名の修了生、11名の博士を輩出してきました。また、社会人教育では、鹿児島ルネッサンスアカデミー焼酎マイスター養成コースを主催して今年で14年、合計627名の焼酎マイスターを世に送りだしてきました。さらには、地域に根差した酒を研究する、山梨大学ワイン科学研究センター、新潟大学日本酒学センターとの連携協定を締結し、年に1回のシンポジウム「日本の酒シンポジウム」開催や、それぞれの酒の基礎を学べる連携講義「日本の酒学序論」を開講し、新たな局面を迎えています。また、「焼酎を世界の酒に！」を合言葉に、昨年度には、フランスのボルドー大学と連携協定を締結するとともに、ワインに関するネットワークにも参加して焼酎に関する発信を行っています。

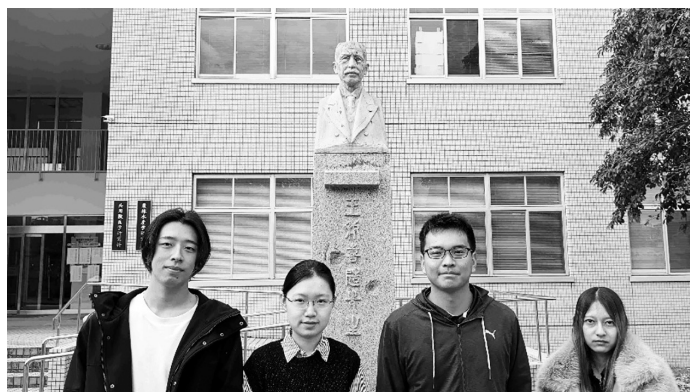
これまでの様々な出来事を振り返ると、現場を去る一抹の寂しさは感じますが、センターのますますの活躍を楽しみに見守るとともに、農学部ならびにあらた同窓会のますますのご発展をお祈りいたします。

長い間ありがとうございました！

## 特別寄稿

## 新任「学生幹事」のご紹介

学内幹事 花城 勲 (院化H6修)



令和7年度新任学生幹事の皆さん  
(左から辻江元志さん、チンシエさん、新谷敦哉さん、田中葉月さん)

令和7年度より、プログラム毎に2年生1名が「学生幹事」に推薦され、計4名が就任しました。学生幹事には本年度大賞受賞の流行語の様に(?)若い視点から同窓会活動に対して様々な意見を寄せてもらうことが期待されます。当面は会報編集や学生向け講演会などの企画・運営などに参加してもらう予定です。皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

辻江 元志 (植物資源科学PG) : はじめまして。この度学生幹事を務めさせていただくことになりました。農学部植物資源科学プログラム所属2年の辻江元志です。普段は漕艇部に所属し日々練習に励んでおります。大学生になり始めて運動部に所属したため部活動では日々新しい経験をすることができています。仲間との協力の大切さや練習を耐え抜く粘り強さなどを学び、それらが大学生活全体の支えとなっています。部活動で培った能力を生かしながら学生幹事として現役学生ならではの視点で同窓会をより盛り上げることができるよう誠心誠意務めてまいります。まだまだ学ぶことばかりですが、どうぞ温かく見守っていただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

チン シエ (食品生命科学PG) : このたび学生幹事を務めさせていただくことになりました、農学科食品生命科学プログラム2年のチンシエと申します。学生幹事としての活動は今年が初めてで、まだ分からないことも多いのですが、先輩方のご指導をいただきながら、まずはサポートを中心にしっかり取り組んでいきたいと思っております。専門分野での学びを同窓会活動にも生かし、また、日頃の授業を受けるだけでは得られない、卒業生や先輩方の研究、経験から学べる機会を大切に、視野を広げたいと考えております。学生として成長につながるよう努力してまいります。まだ未熟ではありますが、責任をもって丁寧に取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新谷 敦哉 (環境共生科学PG) : 農学科環境共生科学プログラム2年の新谷敦哉です。農地農村工学に興味があり、農業に関わる水や土に関する学びを中心としながら、改組の特徴である自ら時間割を作成できる柔軟性を活かし、作物、土壌、育種、生産方法、経営など様々な視点から農について学んでいます。また、漕艇部に所属しており、日々仲間と共に練習に励んでいます。学生幹事としては、学生の立場から同窓会報をより良いものにすると共に、同窓会の皆様と学生の間で、つながりがより深められるように尽力して参りたいと思っております。

田中 葉月 (農食産業・地域マネジメントPG) : 農食産業・地域マネジメントプログラムの田中葉月です。学生幹事を担当することになりました。同窓会の活動に関して、まわりの声も聞きながら幹事会では積極的に意見をしていき、同窓会報の企画や編集などでは、みなさんに興味を持ってもらえるようなものを提案していきたいと思っています。みなさんの協力を得ながらになりますが、あらた同窓会がより良いものになるように務めて参ります。

# 令和6年度農学部・農林水産学研究科 卒業・修了祝賀会、 令和7年度新入生茶話会、父母等のつどい報告

常任副会長 富永 茂人 (園S 48卒)

## 1. 令和6年度農学部・農林水産学研究科 卒業・修了祝賀会 (令和7年3月25日)

3月25日、令和6年度(第73回)鹿児島大学卒業式・修了式が鹿児島県総合体育センター体育館において行われました。

同日午後から農学部とあらた同窓会の共催により「農学部・農林水産学研究科(農学系)卒業・修了祝賀会」を農・獣医共通棟101号教室において盛大に開催しました。



令和6年度卒業・修了祝賀会(写真左から農学部長挨拶、あらた同窓会長挨拶、万歳三唱、懇親の様様)

本年度の農学部卒業生は196名、院(農学系)修了生は65名でした。祝賀会では寺岡農学部長および下川あらた同窓会長の挨拶、佐野あらた同窓会副会長の祝杯で祝賀・懇親会に入りました。祝賀会の途中では出席者からの祝福の中、卒業生・修了生に対する各種表彰が行われ、最後に卒業生答辞が読まれました。その後、八幡正則先輩のご発声による「鹿児島高等農林学校」の校歌斉唱および万歳三唱が行われ、祝賀会は終了しました。祝賀会の写真は「あらた同窓会HP (<https://aratadousokai.org/>)」のギャラリーページ (<https://aratadousokai.org/gallery/>) からご覧ください。

## 2. 「あらた同窓会」主催の新入生茶話会 (令和7年4月3日)

令和7年4月3日(木)に「令和7年度農学部新入生オリエンテーション」が開催されました。今年の新入生は(農学科168人、国際食料資源学特別コース15人)、3年次編入5人でした。オリエンテーションでは「あらた同窓会」の活動紹介をしながら入会金の納入促進をお願いしました。午後3時から「あらた同窓会主催」の新入生茶話会を開催しました。ほぼ全員の新生と先生方へ出席していただき、山本農学部長および下川あらた同窓会長による入学歓迎の挨拶の後茶話会に入りました。茶話会の途中では「農学部あらた同窓会の紹介」、「新入生からの質問」などのコーナーもありました。先生方からの質問に新生が答えるなどとても和気あいあいとした茶話会でした。次年度以降も継続したいものです。オリエンテーションと茶話会の写真は「あらた同窓会HP (<https://aratadousokai.org/>)」のギャラリーページ (<https://aratadousokai.org/gallery/>) からご覧ください。



令和7年度農学部新入オリエンテーション



令和7年度農学部新入生茶話会

## 3. 「令和7年度農学部新入生父母等のつどい」 (令和7年4月7日)

令和7年4月7日(月)に「令和7年度鹿児島大学入学式」が鹿児島県体育館において行われました。当日午後には農・獣医101号教室で行われた「令和7年度農学部新入生父母等のつどい」において、時間をとっていただき、農学部の同窓会活動への理解を得るために「鹿児島大学農学部あらた同窓会」の活動内容について紹介をしました。



令和7年度農学部新入生父母等のつどいにおける「あらた同窓会」の紹介

## 「あらた同窓会令和7年度総会および懇親会」を盛大に開催しました

常任副会長 富永 茂人（園S48卒）

令和7年11月23日（日・勤労感謝の日・旧新嘗祭の日）に「鹿児島大学農学部あらた同窓会」令和7年度総会、懇親会を開催しました。

総会は、令和3及び4年に引き続き、「農・獣医共通棟101号教室」で15:00～17:00に開催しました。出席者は54名でした。総会は、田浦悟常任幹事（農S59卒）の司会で進められました。

「あらた同窓会」の下川悦郎会長（林S44卒）の挨拶および坂巻祥孝農学部副学部長による「農学部長挨拶代読」挨拶の後、岩井久氏（農S55卒）を議長に選出し、事務局から令和6年度の活動報告（案）、会計報告（案）等、令和7年度の活動計画（案）、予算（案）、会則改正（案）および役員交代・改選（案）が提案され、審議の結果いずれも異議なく了承されました。今年度は、副会長（1名）、評議員（1名）の他、学生幹事（農学科各プログラムから2年生1名ずつの4名）が新たに就任されました。会則改正（案）は学生幹事に係る会則の追加・改正が主たるものでした。以上のように総会は滞りなく閉会になりました。本総会の議題および審議結果の詳細については本号38ページからの「本部だより」に記載していますのでご覧ください。

総会終了後、「ヴェジマルシェ'19」（稲盛記念館）に移動し、17:30～19:30まで懇親会を開催しました。懇親会の出席者は51名でした。

懇親会では開会挨拶（下川会長）、乾杯（前田芳實元鹿児島大学長）に続いて開宴し、農学部長挨拶（坂巻副学部長代読）、昨年11月に逝去された八幡正則氏のご業績と思い出のご紹介（保岡宏武前衆議院議員）等が続き、出席者全員が旧友、先輩・後輩との再会に話が盛り上がりました。最後に鹿児島高等農林学校の校歌を斉唱し開宴しました。なお、令和8年度の総会・懇親会は令和8年11月23日（月・勤労感謝の日）に開催される予定です。



あらた同窓会令和7年度総会



あらた同窓会令和7年度懇親会

## 田浦悟教授の退職祝賀会が開催されました

牧野 伸洋（農S53卒）

令和7年11月15日（土）に鹿児島市照国町のホテル吹上荘において、同年3月にご定年になられた先端科学研究推進センター研究支援ユニット教授田浦悟先生の退職祝賀会が盛大に行われました。

田浦先生は、昭和55年に農学部農学科に入学され、植物育種学研究室に入られました。卒業後は九州大学大学院農学研究科に進学され、イネ白葉枯病について研究をされました。その後、フィリピンの国際イネ研究所（IRRI）でJICAプロジェクトの一員として研究に携わられました。平成元年に植物育種学研究室の助手として古巣に帰ってこられ、平成8年からは同年に設置が認められた遺伝子実験施設に移籍され、同施



スライドを使って挨拶をする田浦先生

設の設計等に携わられました。平成13年から16年にはベトナムのハノイ農業大学大学強化計画にも参加されています。そして、36年にわたり多くの研究実績や学内外への貢献をされ、鹿児島大学を令和7年3月に定年退職されました。

退職祝賀会は、農学部の一谷勝之先生を中心に卒業生や学生で企画、運営されました。祝賀会には、佐藤宗治先生、一谷先生や県内外の農学部植物育種学研究室の卒業生等64人、在学生13人の計77人が参加して、田浦先生の新しい門出を祝いました。

祝賀会は、一谷先生の開会の挨拶、趣旨説明に続いて、田浦先生がスライドを使いながら挨拶をされ、学生代表から記念品と花束の送呈の後、懇談会に入りました。懇談会では、久しぶりに会う卒業生も多く、あちらこちらで昔話に花が咲き、同窓会（注：育珍会）としても楽しめました。



照れながら花束を受け取る田浦先生



出席者全員での記念撮影

注：育種学研究室の同窓会「育珍会」

「育珍会」は、宮司祐三先生の時代に発足した植物育種学研究室の同窓会（飲み会）です。10数年前に参加資格が60歳以上の「おせんし育珍会」も発足しました。ここ数年「育珍会」は休止状態ですが、「おせんし育珍会」はコロナ禍時期を除いて毎年開催しており、最近では県外からの参加者も増えつつあります。「育珍会」、「おせんし育珍会」に興味のある方は、おせんし育珍会事務局の牧野（090-9073-3487）までお問い合わせください。

## 支部・職域・クラス会・グループ便り

### 「あらた関東化友会」近況報告

あらた関東化友会事務局 飯尾 鉄臣（化S 49卒）

私は川崎市のクノール食品という会社（現 味の素食品）に就職し定年退職までいろいろな経験をさせてもらいました。特に、50歳代は静岡と北海道の出向先で単身生活でした。2011年3月11日は東日本大震災が発生した日ですが、その日の午前中に本社復職（当時北海道クノール食品の顧問をしていました）を命ぜられ、3月末東北の被害の悲惨さを飛行機から見ながら、家族のいる川崎市に帰ってまいりました。それから「あらた関東化友会」との付き合いが始まりました。「あらた関東化友会」は旧農芸化学科同窓会「化友会」の東京支部です。当時の事務局は向原先輩（S44卒で兄と同級生）で、献身的な活動をされていました。

「あらた関東化友会」の主な活動は毎年4月に行われる「総会・懇親会」です。総会で会長挨拶、活動報告や会計報告、役員改選、特別講演（30分程度）等を行い、その後（主たる目的の）懇親会で交流を深めお開きとなります。2010年に発足し、初回は参加者38名の盛況ぶりだったようですが、ご高齢の方々が亡くなったり出席できなくなったりで参加者の入れ替わりはあるものの、事務局のご努力の甲斐あって参加者は20～25名を維持していました。

2019年に事務局が向原先輩から私に代わり、片山会長（S47卒）のご指示のもとに会を運営することになり

ました。しかし、2019年後半から始まったコロナ禍の影響で定例の「総会&懇親会」ができなくなってしまい、会員の皆様の交流の一環として「近況報告集」を発行したりして活動が途切れないようなこともやってみました。2023年から活動を再開し4月に「総会&懇親会」開催を決めたものの、参加者集めに前任者同様四苦八苦しました。幹事会で参加者集めについて具体的に担当を決めて対応し、当時発行されたばかりの「あらた同窓会会員名簿（令和5年6月15日発行）」を頼りに関東地区の全員に総会案内を出しました。結論から言いますと、名簿の効果はあまりなく、これまでの常連の参加者や各幹事の個人的な人脈（同級生を誘う、会社の



2025年あらた関東化友会（2025.4.13 於 東天紅東京国際フォーラム店）

同僚・後輩を誘う等）に負うところ大でした。ご高齢の方々が外出不能になられる中で、新たな勧誘の成果もあって、2024年、25年と25名弱の皆様にご参加いただきました。また、以前行っていました「特別講演」も山口憲治様（S44卒）のご協力により実現でき、コロナ禍のブランクを感じさせない活動に戻すことができました。

さて、2026年の「総会&懇親会」ですが、今度こそ30名の参加者を目標に会員の皆様に働きかけていきたいと思っています。（完）

**追記：**私は昭和49年に卒業しましたが、卒業式直前になって、当時の永濱伴紀教授から鹿児島高等農林学校の寮歌をカセットに録音してくれないかと依頼がありました。私が4年間男声合唱団フロイデコールで歌っていたことを知っておられたが故のご依頼で、早速部室にたむろしていた10名程度を農芸化学の教室に連れて来て、先生に渡された楽譜を数回練習し何曲か録音しました。録音した寮歌は卒業の時の農学部で流されていた記憶があります。

その後数年後に、フロイデコールが歌いなおして立派なCDが完成したことを聞きました。今でも記憶に残る思い出です。

## 令和7年度関西あらた会総会・懇親会報告

関西あらた会会長 秋吉 博之（化S55卒）

令和7年5月25日（日）に、JR尼崎駅近くのホテルヴィスキオ尼崎で、農学部長山本雅史先生を来賓にお迎えして16名の参加者のもと、関西あらた会総会を開催しました。これまで近畿あらた会と兵庫あらた会との合同で実施していた活動を発展的に統合し、近畿2府4県に広げて若い卒業生の加入促進を図るとの趣旨から「関西あらた会」が昨年度に設立されました。

総会冒頭には、訃報のご連絡があった郡山基彦氏（総S36卒）、福元義人氏（蚕S36卒）のご冥福を参加者全員で祈念しました。

秋吉会長の開会挨拶の後、関西あらた会の運営に関する事項が提案され、「関西あらた会会則（改正）」「関西あらた会役員」「令和7年度事業計画並びに収支計画」がそれぞれ承認されました。総会の進行には、関西あらた会役員の副会長・嶋田雅之氏（獣S58卒）、常任幹事・瀬戸口恒夫氏（環H7卒）があたりました。なお、その他の関西あらた会役員については、あらた同窓会HP（役員名簿）に掲載されていますのでご覧ください。

次いで来賓として出席いただきました農学部長山本雅史先生より、母校・本部同窓会の近況報告をしていただきました。この中で「鹿児島大学農学部概要2025」を配布いただき、令和6年4月からの鹿児島大学農学部の全面的な改組について説明が



関西あらた会総会 集合写真

ありました。これまでの3学科の体制から(新)農学科1学科とし、「植物資源科学」「環境共生科学」「食品生命科学」「食農産業・地域マネジメント」の4つのプログラムからなる教育体制となりました。学生は(新)農学科に入学し、2年次に希望するプログラムに所属することになります。さらに鹿児島大学共同獣医学部に畜産学科が開設されたことなどの報告がありました。

続きまして男性3人組のフォークソング演奏グループ「コープこうべフォークソング同好会TOMOYO Love & Peace Project」の演奏会となりました。昨年度の所崎旦氏(畜S46卒)の近況報告の中で演奏活動のことをお伝えいただき、今回の演奏となりました。所崎氏を含む3人は学生時代に音楽活動を経験し、その経験をもとに18年前(2005年10月)にグループを結成されました。1969年から1972年ころに流行したフォークソング音楽を中心に演奏されています。これまでの18年間に延べ300回を超える演奏活動をされています。コープ関係、民生委員関係や老健施設の喫茶や食事会で演奏されています。この活動が認められて2011年3月には第2回賀川賞(賀川記念館)を受賞されています。

演奏会では「友よ」「あの素晴らしい愛をもう一度」「この広い野原いっぱい」「翼をください」「イムジン河」「故郷」など70年代フォークソングと言われているジャンルの曲などの演奏やコーラスにあわせて、楽しく参加者と一緒に歌いました。

演奏会後に記念撮影を行い懇親会となり、参加者全員が思い思いに色紙に寄せ書を記しました。昨年度から関西あらた会とのことで、近畿2府4県の卒業生の方々へ案内状をお送りしています。今年度には摂南大学農学部にお勤めの藪田伸氏(生H19卒)が新たに参加され、出席者の皆様全員から近況報告をしていただきました。総会の最後には、田代善和氏(畜S46卒)と太野垣賢治氏(工S49卒)によるご発声で「鹿児島高等農林学校校歌」と「北辰斜めに」の大合唱となり、次年度には2026年5月31日(日)にホテルヴィスキオ尼崎で元気に再会することを確認して閉会となりました。その後、有志の方々は2次会へと向かいました。



関西あらた会総会 寄せ書

## 広島あらた同窓会支部便り

広島あらた会副会長 辻野 聡 (林H2卒)

令和7年12月7日(日)正午から、例年と同じく広島市内の名店「むすびのむさし土橋店」にて、第74回広島あらた同窓会総会を開催しました。

総会には昨年、一昨年に引き続き、来賓として鹿児島大学前農学部長である寺岡行雄先生と昨年に引き続き関西支部の本村雄一郎さん(畜S53卒)をお招きし、総勢12名での総会となりました。

今年は、もう一方来賓として、本村雄一郎さんのご紹介で某上場企業の執行役員をされている小林篤志さん(生H11卒)を新たにお迎えしました。本村さんからは前述のとおり「執行役員の方」とお聞きしていたので、割とご年配の方を想像していたのですが、お会いしてみると大変若くて驚きました。お三方とも快くご参加いただき、この紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。

さて、総会は高野茂会長(林H元卒)の挨拶、平野朝彦前会長(林S38卒)の乾杯で始まり、途中、各会員の方からの近況報告を交えながら、2時間余りを楽しく過ごしました。当総会の会場は一般のお客様もいらっしやるオープンなスペースであるため、校歌等の合唱は行わず、不肖私の一丁締めで散会としました。

ところで、この度の総会で若い方たちとお話する中で、在学中に同窓会に加入したこと自体あまり記憶がなく、よもや各地方に支部なるものがあるなどつゆ知らず今日に至っ



出席者集合写真



出席者で肩を組んで

た、といった話を耳にしました。現在、各支部では加入状況が芳しくなく、存続も危ぶまれる支部もあるようにお見受けしています。当会（広島支部）は何とか形を保っていますが、年配の先輩方におかれては体調不良等で毎年欠席の方が多くなっており、他人事ではない状況です。ついては、在学生に対する同窓会並びに同窓会支部の一層の周知を、今一度本部へお願いをしまして、総会の開催報告とさせていただきます。

#### 平野朝彦（林S38）前会長の退任ご挨拶

異常気象が続き、酷暑の夏をなんとかしのいできた2025年も例年同様12月に「広島あらた同窓会総会・懇親会」を開催することができました。長い伝統を誇る「広島あらた会」総会も令和7年で第74回を迎えました。「広島あらた会」を早期に立ち上げて下さった諸先輩方に感謝の念が絶えません。今回も来賓として鹿児島大学前農学部長の寺岡幸雄先生にご参加いただき、楽しく賑やかな会となりました。また嬉しいことに若人2名に入会してもらいました。

私こと、これまで先輩方のお力添えをいただき会長を務めて参りましたが、この度、高野茂さん（林H元）にバトンを引き継ぎます。今後も「広島あらた会」がますます発展するように皆様どうぞよろしくお願いいたします。

## 令和7年度佐賀あらた同窓会総会及び懇親会を開催しました

佐賀あらた会幹事長 森 敬亮（生H15卒）

令和7年7月5日（土）、令和7年度佐賀あらた同窓会総会および懇親会を開催しました。

本年は梅雨明けが早く、夏本番を思わせる暑さの中での開催となりましたが、県内外から21名の同窓生にご出席いただき、久しぶりの再会を喜び合う和やかな雰囲気の中で会がスタートしました。総会では新堂会長（園S59卒）の挨拶により開会し、日頃より同窓会活動を支えてくださっている会員の皆さまへの感謝の言葉とともに、今後も世代を超えた交流を大切にしていきたいとの思いが語られました。続いて、本部より山本雅史農学部長を来賓としてお迎えし、農学部における学科再編の動きや教育・研究の取り組み、さらには鹿児島大学全体の近況についてご報告をいただきました。母校の現状や将来像に触れる貴重な機会となり、出席者一同、熱心に耳を傾けていました。

総会終了後の懇親会では、学生時代の思い出話やそれぞれの近況報告など、話題が尽きることなく、終始笑顔と笑い声に包まれたひとときとなりました。世代の違いを越えて交流を深めることができ、有意義な時間となったことと思います。最後は古賀副会長（園S54卒）の音頭による三三七拍子で締めくくられ、再会を約束しつつ、盛会のうちにお開きとなりました。



出席者集合写真



古賀副会長による乾杯の挨拶

## 令和7年「宮崎あらた会」を5年ぶりに開催しました

宮崎あらた会 会長 荒武 正則（畜S48卒）

理事 花田 広（畜S58卒）

長らく休会にしておりました「宮崎あらた会」を宮崎市の「すし貴」で5年ぶりに開催しました。顧問の小川様（総S35卒）にもおいでいただき出席者は29人でした。5年ぶりの開催でしたので「役員改選」もあわせて行い、会長に荒武正則氏（畜S48卒）が就任しました。

同窓会本部から学内幹事の樗木直也先生（化S58卒）に御臨席を賜り、母校鹿児島大学農学部の現況及び「あらた同窓会」の活動等について、御報告いただきました。

また、会長の挨拶と乾杯の後、久しぶりに顔を合わせた出席者全員で、短い時間ではありましたが、昔話などに花を咲かせながら和気あいあいと過ごしました。本当にあっという間の楽しい時間でした。

料理も、たいへん豪勢で、食べきれなかった方も多いうでした。

最後は余呉和康前会長（畜S43卒）の一本締めで次回の再会を誓ってお開きにいたしました。

後日、役員反省会を開き、来年の次回開催に向け、方針を検討しました。役員一同今後とも、頑張ってまいります。

なお、どこの同窓会も同様の問題を抱えていると思いますが、若い会員の皆様方の関心が薄いようです。コロナ禍以降、こういった集まりも、少なくなっていると思います。現役世代との交流があれば、なお、盛り上がると思いますので、全国で、優良事例等ありましたら、また、御教示いただければ幸いです。

今後とも、よろしくお願いたします。



出席者の集合写真



余呉前会長の締めの挨拶

## 世代をつなぐ熊本あらた会（熊本あらた会支部だより）

熊本あらた会事務局書記 北村 勇（生H10卒）

晩秋の柔らかな陽光に包まれた土曜日の午後、熊本あらた会総会が盛大に開催されました。今年は42名の会員が集い、会場は終始和やかな雰囲気になりました。冒頭、村田達郎会長（農S51卒）より力強いご挨拶があり、続いて議事運営のもと4つの議案が滞りなく承認されました。通常の事業報告や計画に加え、役員体制の見直しと若手支援策が新たに決議されたことは、今後の活動基盤をより強固にする大きな一歩となりました。

懇親会は古田陽一副会長（畜S60卒）のご挨拶と乾杯で幕を開け、世代を超えた交流の場として大いに盛り上がりました。宴の途中には、地頭蘭隆名誉教授（林S56卒）より大学の近況報告があり、母校の歩みを共有する貴重な時間となりました。また、令和5、6年卒業の若手4名が自己紹介を行い、先輩方との交流を深める姿が印象的でした。若い世代の参加は会に新しい風を吹き込み、今後の活動に活力を与えるものと期待されます。

会の終盤には、巻頭言が声高らかに唱えられ、続いて「北辰斜に」と「鹿児島高等農林学校校歌」を全員で斉唱しました。歌声が会場に響き渡り、世代を超えた一体感が生まれる瞬間でした。最後は荒牧美喜雄副会長（獣S57卒）の万歳三唱で締めくくられ、参加者一同が心をひとつにして会の発展を誓いました。

今回の総会では、若手が積極的に参画できる環境づくりが大きなテーマとなりました。役員体制の見直しや支援策の導入により、若い世代が安心して活動に関わることができるようになり、世代間のつながりが一層深まることが期待されます。歴史ある同窓会が持続的に発展していくためには、伝統を大切にしつつ新しい力を取り入れることが不可欠です。今回の総会は、その方向性を明確に示す場となりました。



出席者の集合写真



荒牧副会長による万歳三唱

明るい陽気に恵まれた一日、参加者それぞれが母校への思いを新たにし、絆を確かめ合う総会となりました。熊本あらた会は、今後も世代を超えた交流を大切にしながら、持続的な発展を目指して歩みを進めてまいります。

## あらた同窓会鹿児島支部の会員職場の紹介（鹿児島県立農業大学校）

鹿児島支部常任幹事 田中 重行（園S 62卒）

農業開発総合センター農業大学校 樋口 真一（園H元卒）

鹿児島支部は、鹿児島大学をはじめ、県（農政部、環境林務部、農業開発総合センター、鹿児島地域振興局）、鹿児島市役所、県農協連、公益社団法人鹿児島県農業・農村振興協会（県のOB職員や上記以外の団体の職員などを含む）で構成されており、令和6年度末（令和7年9月末）で、296名の会員がいます。

今回は、本県農業の今後を担う人材の育成に努められている農業開発総合センター農業大学校に勤務されている会員の樋口さんに職場のご紹介をお願いしました。

園芸学科（果樹研究室講座）、平成元年卒業の樋口です。よろしくお願ひします。

私が勤務している鹿児島県立農業大学校は農業開発総合センター（センター全体で支部会員47名）内にあり、令和7年度正規職員、会計年度職員併せて、63名の職員がおり、そのうち正規職員では鹿児島大学農学部卒業の職員が20名います。職員の約3分の1を占めており、皆元気に勤務しています。

簡単に鹿児島県立農業大学校の紹介をします。

当校は、農業に関する高度な知識及び技術を習得させ、次代の農業及び農村を担う優れた青年農業者及び地域の指導者等を育成することを目的として、昭和53年4月に開設され、平成15年に県内各地に点在していた学部の移転・統合を行い、現在の日置市吹上町和田に開校しました。令和6年度までの卒業生は、4,587名で、本県農業の担い手や農業関係機関の指導者等、各地に多くの人材を輩出しています。

本校の敷地面積は35haあり、実習を行うほ場や畜舎の他、寮、体育館、食堂など備えています。養成課程では農学部（野菜科、花き科、茶業科、果樹科）、畜産学部（肉用牛科、酪農科、養豚科）の2学部があり、2年間学びます。さらに卒業後の進学先として、2か年の研究部門があります。

その他にも、農業者の研修施設として農業機械の研修や、農産物加工研修、新規就農者や農村女性のリーダー研修なども行っています。

私は、平成元年3月に卒業し、県庁に入庁しました。初任地では、同じ講座の同級生と一緒に配属され、36年経った現在もその同級生と一緒に当校で勤務しています。学生時代からの親友が近くにいることもあり、学生時代のことも、つい最近あったかのように話すことができ、職場が楽しく、心強い限りです。また、当時の園芸学科の学生時代を知る職員がそのほかにも数名いるほか、鹿児島大学出身者も多いため、本当に頼もしく思っています。あらた同窓会会員が、次代の農業者育成に役立っているという想いが強くなっています。

当校では親元就農のほか、農業法人への就職、公務員やJAの技術職員など様々な進路の選択がある一方、鹿児島大学など4年制大学への3年生編入などの進学を希望する学生もいます。しかし、現在、農業大学校の在学人数は1年生54名、2年生70名（1学年定員115名）で、少子化の影響もあり学生確保にかなり苦労しているところです。農業に従事したい、農業の技術者になりたいなどの希望を持つ方がおられました



農業大学校の全景



農業大学校正面玄関（左：食堂棟、右：管理棟）



学生寮

ら、当校への入学を薦めていただければと思います。

これからも、あらた同窓会会員として、本県農業の発展のため、新規就農者の確保育成など尽力していきたいと思ひます。

## あらた同窓会鹿児島市役所支部総会、懇親会報告

鹿児島市役所あらた会幹事 脇 建二 (生H 16卒)

あらた同窓会鹿児島市役所支部は、会員94名にて活動しており、年1回の総会及び懇親会の開催、本部総会への会員派遣、記念品の配布などを行っています。会員には、事務、土木、農業、獣医師などの多様な職種が在籍していることから、情報交換の場として活用されています。

令和2年度から令和4年度にかけて新型コロナウイルスの影響で、総会及び懇親会を開催することができませんでした。新型コロナウイルスの影響も少なくなってきたということで、令和5年度に4年ぶりに総会及び懇親会を開催し、口々に開催できて良かったとの声をいただいたことから、今年度も10月10日に総会及び懇親会を開催したところです。

総会では、吉松豊会長(農H2年卒)と尾堂憲司副会長(獣H4年卒)が選任され、新体制がスタートしました。また、懇親会では、豪華抽選会を開催し、抽選結果に一喜一憂しました。

また、今年度、新たに2名が新規入会し、新しい風を吹き込むことにより、同窓会の活動がより活発になることが期待されます。

あらた同窓会常任副会長の富永先生にも参加していただいて大いに盛り上がり、楽しかった学生時代を思い出すことができました。

最後になりますが、同窓会の幹事を務めて感じるの、会員の同窓会離れです。コロナ禍以前は、ほぼ100%

入会していましたが、最近はそのようではなくなりました。新型コロナウイルスの影響で総会等を開催できなかったことも一因であると思ひますが、魅力ある同窓会活動や情報交換を行って市役所生活にプラスになったと感じてもらえるよう頑張っていきたいと思ひます。



吉松新会長による挨拶



懇親会の様子

## 「おせんしの育珍会」を開催しました

田浦 悟 (農S 59卒)

令和7年5月11日 鹿児島中央駅西口「驛亭 さつま」にて「おせんしの育珍会」を開催しました。育珍会は育種学教室の同窓会で、その「おせんし(大人)」の部にあたります。年齢が50歳を過ぎた頃から参加のお呼びがかかります。今回は新型コロナウイルス禍による中断後、2回目の開催で三宅康郎氏(農S43)新会長による初会合になりました。前年度の本会決議で危険な暑い最中の7月を避け、年寄り(おせんし)が安全に参加できる5月の開催となりました。出席は佐藤宗治先生と育種学教室同窓生の12名でした。いつもながら学生時代、退職してからの話等が尽きず大いに盛り上がりました。また、会では本寄稿者(田浦)の退職(令和7年3月)を祝い、花束の



出席者集合写真

贈呈がありました。さらに、育珍会による退職祝賀会の開催（本誌記事掲載）を秋に行うこととなりました。次会の育珍会での再会を願って、熊本から参加の村田達郎氏（S51卒）による締め挨拶で終宴となりました。

## 「園芸学科果樹園芸学研究室昭和59年卒業生の集まり（第4回）」

新堂 高広（園S 59卒）

私たちは還暦を機に同窓会をするようになったのですが、仲がいいのか、それとも時間に余裕があるのか、4回目の集まりを2年ぶりに昨年（令和7年）12月5日に鹿児島で行いました。当然、男5人と富永先生も参加されて大学の近くの騎射場で先生行きつけのお店でとても楽しい時間を過ごせました。また、次の日はレンタカーを借りて指宿から開聞岳、池田湖あたりを散策しました。このように集まって飲めるのもお互いが基本的に健康であるからと本当に感謝していますし、身に染みて実感しています。ただ、時間が過ぎるのはとても早いもので、「還暦を機に集まろう」と話が出たのが7年前で、もうすぐすると「今度は古希を機に…」という年が間近になってきました。みんなで会って話すと当時のままのような感じはしますが、それなりにいいおじ（い？）さんになったのも現実として受け止めなければいけません。しかし、驚くのは恩師である岩堀先生



懇親会の様子（左から早崎、新堂、熊本、斎藤、山崎、富永先生）

（2年前東京でお会いしました。今もとてもお元気とのこと。）や富永先生がとてもお元気なことです。ちなみに今年令和8年は岩堀先生が八十八歳の米寿、富永先生が七十七歳の喜寿になられるということで、大変おめでたい年になりそうで、自分たちもそのようになれるようにあやかりたいと願っています。

ただ、今回残念なこともありましたが、今回集まったのは、もちろんみんなで思い出を肴に飲もうということもありましたが、これまで同窓会に一度も参加されなかったが、果樹研究室の同級生6名のうちの紅

一点であった吉永さん（旧姓永井さん）に会いに行くことも大きな目的の一つでした。闘病されているとのことでしたので、一目だけでもと次の日に住所を頼りに4名で出かけ自宅に行ったのですが、留守のようでしたので大学の3、4年生時の果樹研究室の作業日誌のコピーと「いつか会いましょう」という走り書きを添えて帰りました。ただ、その夜に熊本さんに吉永さんのご主人から2年前に他界していたとの連絡が入り、翌日自分たちも知ることになりました。同級生が亡くなったということはみんなにとってとてもショックでしたし、会って話せればとても楽しい思い出話がたくさんあったのにと重ね重ね残念です。

遅くなりましたが、ここに同級生一同、心からご冥福をお祈りいたします。



西大山駅から見た開聞岳

## 会員からの寄稿（エッセイなど）

### 音楽ボランティア活動の20年

関西あらた会幹事 所崎 旦（畜S46卒）

私は鹿児島大学に入学（昭和41年）しました。当時は音楽関係の部活動が多数あり、その中でハワイアンバンドに加入しました。音楽演奏クラブに加

入して音楽を前々から演奏したいという希望があったのです。そのハワイアンバンド（ハワイアンエコーズ）では、夏場に



コープサークル・クラブ・フェスタ (2021年2月：会場・コープ大久保、明石市、左側のギター担当が私)

なると城山観光ホテルのビアガーデンなどで4月末から8月まで、1日に夜間に4回の演奏があり、行ける時は演奏を続けて次第に演奏技術もうまくなりました。また、丸屋デパートの屋上ビアガーデンにも行き、夏になるとハワイアン音楽がぴったりでした。名瀬市にある山羊島ホテル（ビヤガーデン）でも1か月近く演奏をしました。また、そのころは学生たちが主催するダンスパーティーも数多く開催され、そのような会場や天文館にあるクラブ（バー）などあちこちに呼ばれて演奏しました。私は最初は



ハワイアンエコーズ定期演奏会 (1966年6月、会場・鹿児島市医師会館ホール、右側のウッドベース担当が私)

ウッドベースを担当していましたが、途中でギターに替わりました。当時はハワイアン演奏グループの大橋節夫とハニーアイランダーズの演奏スタイルが気に入り、その演奏をコピーするようになっていました。

大学を卒業後、コープこうべに就職し軽音楽サークル（5人組の軽音楽バンド＝オレアンドフォー）を結成して活動を続けていましたが、30歳を過ぎると仕事が多忙になり、自然にバンドは解散状態になりました。長い期間の沈黙の後、思い立ち、何か演奏機会がないだろうかと考え、周囲の演奏ができそうな学生時代に演奏活動の経験がある2人に声をかけ「フォークソンググループTOMOYO（3人組）」を2005年10月に結成しました。最初はすぐに演奏ができると思っていたのですが、長い期間の演奏活動の休止期間があり、指が思うように動かないなどで固い顔立ちで演奏していたようです。演奏に余裕がなく、譜面を見ながらの演奏になっていたようでした。

た。最初の演奏はコープの組合員たちの文化活動の発表会（明石コープセンター祭2005年11月開催）にゲスト参加として出たのですが、その演奏が意外にも評価されたようで、同じ曲目でもいからまた演奏して欲しいとの声がかかりました。演奏を開始した年は、3回ほど呼ばれましたが、次第に名前を知られるようになり、呼ばれたらどこでも演奏に行く、という方針のもとで少しずつ演奏の場が増えて行き、年に10回、15回となり、多い年には1年に28回の出前演奏をしました。そのため、PA装置（音響機器やマイク、マイクスタンド一式）を購入して自分たちで持ち運びをするようになりました。

私たちが演奏する曲目は1960年代のフォークソングが中心で「神田川」「名残り雪」「イムジン河」「リンゴの唄」等の懐かしい歌を会場の皆さんと共に歌う参加型の形式で1回、10曲を演奏し、約1時間です。神戸を中心に芦屋や西宮、東は大阪の四条畷、西は加古川、北は豊岡、南は淡路島などでした。また、2011年には第2回賀川賞（賀川記念館＝神戸市中央区）をいただくこともできました。

会場は病院、老人介護施設、公民館、コープの組合員集会室、同窓会、新年会等々この20年間で300回を越える演奏を続けました。2020年のコロナ感染症が流行した頃は、予定していた演奏会が突然に取りやめになったり、開催したとしても我々の前にビニール状の透明な幕を下げて感染防止に気を付けながらの演奏になりました。コロナ禍が無ければ350回を越える演奏回数になったらと思う思います。聞いて下さる方々の目の前で生演奏は素人であっても楽しく過ごすことができるようで、次の予約をそこでまた聞くという繰り返しでした。



ハワイアンエコーズ定期演奏会の入場券 (1969年5月、料金：200円、会場・鹿児島県立文化センター)

これまでの約20年の活動で我々も年齢を重ねて、若いころは聞いて下さる方は20歳以上の年上の方々ばかりでしたが、次第に聞く人達との年齢が近くなり、今はほぼ同年代か若い人達に替わりました。演奏する私たちにも健康問題が出て、今年の5月に解散を決定し、実行しました。最後の演奏が「あらた同窓会」になり、呼んでいただいて光栄です。ありがとうございました。今は演奏が無くなり、ギターを毎朝少し弾く程度に変わりました。

昭和46年卒農学科(農学専攻)同窓会

関西支部 藤岡 悦治 (農S46卒)

2025年12月8日～9日、霧島にて農学専攻卒業生の同窓会を開催した。

同窓生の大方が仕事をリタイアして以降、近年では2015：指宿、2016：熊野三山、2017：壱岐・対馬、2018：甑島、2019：大隅半島と、居住地ごとに当番を決め毎年のように計画していたがコロナ禍により中断する期間が長かった。



雄川の滝(南大隅町)にて

今回は、前日に中南米研究会のOB会があり、これを機に鹿児島在住の松元信道君に同窓会を提案した。1泊2日と短い時間だったが、霧島神宮や高千穂河原などを訪れ学生時代の思い出に浸った。高千穂の峰を見上げながら「学生時代、あの坂道を走って登ったよ…」とつぶやいた。



甑島(薩摩川内市)にて

学生時代を親密に過ごしたのはたかだか2年余りである。卒業後も兄弟のごとく長く付き合ってきた要因はやはり鹿児島のユターツとした風土と桜島・焼酎だろう。顔を合わせればたちまち学生時代の心情がよみがえる。まことに楽しいのである。どこかの研究室に集まり、ときに焼酎を酌み交わし他愛もない話で夜遅くまで過ごしたのを昨日のここのように思い出す。

今回の同窓会は7～8人程度の参加が見込まれていたが、インフルエンザや急な腰痛、さらに数人は調整がつかず結果的に4人となった。右から松元信道君、川瀬大三君、上原裕美君、そして私である。良くも悪しくも一人ひとりの学生時代の話には事欠かず、霧島ソサエティの宿泊部屋に戻ってからも焼酎がとまらない。とはいっても、さすがにコロナ禍が分断した溝は大きい。

今回は欠席だったが市和人君が、霧島へ向けて出発前の鹿児島中央駅に、昭和59年の農学部開学75周年祝賀会と、それに合わせて開催した南薩方面での同窓会の写真を持参してくれた。祝賀会では、みんなスーツを身に着け実に初々しい。開聞岳を背にした記念写真

には、いかにも若者らしい粟畑耕二君(旧姓)や南伸一君の姿が見える。生きていれば、これからも加山雄三ばりの歌声や、刈干切唄に合わせた滑稽踊りも披露されることだろう。残念でならない。



霧島神宮にて(右から、松元信道君、川瀬大三君、上原裕美君、筆者)

年齢的にこれから先、顔を合わせる回数は限られるだろうが、引き続きひと時の「思い出づくり」を大切にしたいと願う。

【余談】同窓会の2週間ほど前から体調を崩し、よほど欠席しようかと悩んだ。数日前から一晩中激しい咳が止まらず、加えて原因不明の「腰砕け」で1人ではトイレにも行けず、やむなく夜間だけ幼児のころ以来の紙パンツのお世話になった。恥を忍んでいえば案外“快適”だった。近い将来に向けた予行演習かな？

松元信道君の顔を思うと、これ以上人数が減るのは忍びないと思いついて新幹線に身をゆだねた。案の定、当日は焼酎をいただく気力もなく、みんなには不快な思いをさせてしまった。加えて高千穂河原では、何でもない段差につまずいてぶざまに転んでしまった。山に向かおうとする青年が手を差し伸べてくれ小さな擦り傷だけで済んだ。若いころならまず赤面するのだろうが、いまや素直に年齢と筋肉の衰えを受け入れるしかない。

毎年のように体のあちこちを修繕しながら、自らが期待する「元気」「健康」のレベルに思いをめぐらす。「元気か？」と問われれば、「脳ミソと筋力もスカスカだが、心臓も肺も案外真面目に働いている」と答える。

定期的に病院に通いながら、せめて平均寿命くらいまでは同窓会に出席したいとつくづく願う。

【参考】これまでの同窓会



2015年(指宿・フラワーセンター)



2019年(鹿屋・財宝温泉)



2025年(霧島ソサエティ)

## 『70歳の手習い』

大分あらた会会長 永井 定明 (農S52卒)

何気に居間から狭い庭を眺める。寒い季節は野鳥も訪れない淋しい庭、初夏にはビワの木にヒヨドリ、メジロがにぎやかに集まって来るのだが。仕事を辞めて8年、友人達がまだ社会で頑張っている姿に少し焦燥感を感じる。

70歳を過ぎ、カウントダウンの人生をどう生きていくか？私の重要なテーマになっている。65歳で「自分のやりたいことをやり、人生を終えたい」と仕事を辞め、妻の故郷種子島に年に2～3回長期滞在し、小さな農園で果樹・野菜栽培や大好きな魚釣りをしている（その生活は以前本誌への連載で寄稿済み）。

仕事を辞めるときにあれ程傷んでいた身体が種子島の温かい風土に触れると不思議に自然と元気になる。10年以上前から種子島の畑にはハッサクやモモやミカンなどを40種類以上植えてきたが、今は約20種類しか残っておらず、そのうち収穫できるものはハッサクやパッションフルーツなど7種類のみ。

60歳代では歳を取るとはどういうことになるのか分からなかったが、歳を重ねてきた今自分の姿を見つめ、後何年種子島へいけるのか？収穫できていない果樹はいつ実がなるのか？など焦りを感じている。3年前に腰の手術をし老化とも相まって体力も急に弱ってきて、種子島で生活する自信は揺らいでいる。体調が気になるため以前より種子島の滞在日数は減った、その分大分で生活する時間が増えた。朝起きて、食事をして、夜寝る単調な毎日が続く。そんな時、近くの85歳の方にグランドゴルフに誘われ参加し、人との出会いや語らいを楽しんだものの何だか満足できない。友人に刺激され趣味の一つにと短歌にも挑戦、地方新聞に投稿し十数回程掲載されたがやはり心は満たされない。それは競争や比較や評価で他者を意識しなければならないからだろう。高齢者は仕事社会の卒業生、もう余計な緊張感は必要ない、自己完結で満足し楽しんでいきたいのだ。やることなくじっと座ったまま毎日が過ぎていくのは苦痛で耐えられない、生き活



水彩画に向かう筆者

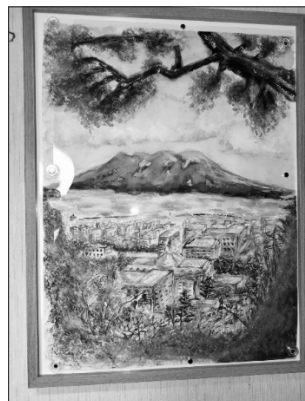
きと生きていく創造的な刺激が欲しいのだ。

時間を持って余している現在の私にとって必要なこと、それは「70歳からの手習い」だ。そこで昔絵画教室に1か月だけ通い才能のなさを感じて遠ざかっていた水彩画に再び取り組んでみることにした。退屈な1日を何にも考えず没頭できビジュアルな完成品を楽しむ、自己満足の中の水彩画の制作は栽培から収穫までの農作業の過程に似ている。私の水彩画の知識・技術は小学校低学年レベルで、イメージ通りには全く描けず、もどかしさや歯がゆさを感じるのだが、最終的には下手は下手なりに完成し、それを見ながら自己満足するのは心地よい。

話は変わって、一緒にいる相棒の妻は日々小さな庭で花を育て、独自手法のドライフラワーや料理教室通いなど「生き生きと、おおらかに楽しく、遅く生きる達人」で、実に羨ましい。私もかく有りたいと思うのだが、私は悲観的に考えて余生をどう生きたらいいのか、そして「願わくば妻より1秒でも先に人生を卒業したい」なんて勝手な願いも持っているのである。

そんな私ではあるが、当面はもう少し長く生き生きとした楽しい日々を送りたいと願っている。今の体力を少しでも長く保ち生き生きと種子島生活を楽しみながら、小さな生き甲斐として水彩画が少し上達し、素晴らしい「種子島の風景」を沢山描いてみたいと思っている。

\*恥ずかしながら下は現在の拙い水彩画です。（また種子島の生活の様子はアメーバブログの「さーちゃんの気ままな日記」に掲載中）



城山から桜島を臨む



静物画



南種子の磯

## 私にとっての鹿児島大学

宮崎あらた会 花田 広 (畜S58卒)

昭和54年、今から50年近く前の話である。桜島を望む鹿児島大学に入学した。宮崎高千穂から出てきた田舎者にとって、全てが新鮮で、初めての経験であった。獣医師を目指していたが、点数が足りず、農学科を受験した。しかし、合格発表があったら、畜産になっていた。第2志望に回されたのである。また、皮肉にも、獣医学科と同じクラスであった。

入学して、果たして卒業できるものかと不安になった。共通一次元年であり、同級生は浪人が多く、知識・学力のない私にとっては、初歩的なことを、いろいろと彼らから学ぶことが多かった。

唐湊で4畳の間借り生活であり、毎日、毎日桜島を眺めながら、大学に通った。当時は、留年は許される環境になかったので、真面目に勉強した。また、みんな、そうであったように、本当に貧乏だった。5万円の仕送り、1万円の部屋代。1日千円の生活。銭湯も2日に1回。今考えれば、灰の降る鹿児島で、非常に、不衛生な生活である。灰は、本当にひどく、4年間、一度も窓を開けた生活はなかった。4年の時には降灰で市電が脱線するほどであった。

朝飯なし。昼は生協。ただ、たばこはしっかり吸っていた。毎日、毎日、友達の下宿に入り浸り、麻雀ば



かりをやっていた。金があれば、スプライトにポテチ。健康的な生活ではなかったが、BMIは低く、ある意味健康だったのかもしれない。

毎日、だらだらとした生活であったが、自分にとっては、大きな意味を持っていた。何も知らない自分にとっては、周りの人たちは、遊び方も知っており、音楽や絵画など芸術的な面も常識レベルが高かった。後々、ここで得られた一般知識は非常に役に立った。

夜になると、桜島の色が変わった。冬の雪景色も圧巻であった。江戸末期、桜島を毎日眺めていた血気盛んな若者達が、大志を抱き、日本を動かそうとしていた原動力は桜島にあるように思えた。自分も、後年、鹿児島を訪れ、桜島を見るたびに、気持ちは高揚した。

大学で学んだ一番のことは、生命現象、命の尊さである。ミニブタを飼っていたが、普段はペット状態で人間を拒まないのに、分娩して娘から母親になった途端、子供を守ろうと、我々を寄せ付けない行動に感動した。

実験で、鶏等、多くの命を奪った。我々、畜産人は、命を奪うときに、いかに動物に対して、苦痛を与えないかを常に考えること、実行することが重要であり、病気等助ける時には、全力を尽くすことを学んだ。人生において、一番大切なことをここ鹿児島大学で学ぶことができた。

今は、時代も変わり、学生生活も、一変したと思う。ただ、携帯も何もなかった時代に人とのつながりで、青春時代を送ったことは、大きな財産に思える。

現在、県を退職し、再就職しているが、今があるのは、あの4年間のおかげだと思う。貴重な4年間。縁あって鹿児島大学で学ばせていただいたこと、感謝に堪えない。

## オールドルーキー 新米蜂屋の1年

吉井 健一郎 (農H4卒)



昭和最後の63年農学科入学、平成6年農学研究科修了の吉井と申します。修了後、鹿児島県茶業試験場加工研究室に3年勤務後、退職して令和5年9月まで、途上国での稲作技術支援に係わってりました。

そんな現在56歳の私が、縁

あって、西洋ミツバチの養蜂家として一本立ちを目指し悪戦苦闘しています。今年始めには師匠から経営も引き継ぎ、さらに難行苦行が加わるも、日々なんとか過ごしております。ここ2年の体験と反省を振り返りつつ、蜂屋の1年をご紹介します。

春：蜂屋の春は、2月中旬頃にやってきます。「建勢(けんせい)給餌」と呼ばれる、越冬後最初の給餌(砂糖水)を皮切りに、その年の仕事が始まります。この時期の最大の目標は、巣箱内の蜂の数を増やすことです。春の花々が咲き始める前に、できるだけ各巣箱の蜂の群れ(蜂群：ほうぐん)を大きくしたいのです。これができれば、花蜜を短期間で多く集めることができます。私の巣箱は100箱あります。途中、花粉団子も与えながら毎週給餌をし、女王は順調に産

卵しているか、蜂たちが病気にかかっていないか、



写真1：2階建てになった巣箱

分蜂（後ほど説明します）の兆しはないか、などを確認します（この作業を内検といいます）。3月の初め頃には集蜜のための場所へ、20箱ずつ5か所に移動させます。日置市内の4か所と、農学部唐湊果樹園へも置かせていただいています。設置後しばらくすると、大きくなった蜂群の巣箱を順次2階建てにしていけます。巣箱の蓋を取り、継箱（つぎばこ）と呼ばれる底も蓋もない箱を継ぐのです。元の巣箱の蓋を継箱にかぶせて2階建ての出来上がりです（写真1）。上下の箱の間には、隔玉板（かくおうばん）と呼ばれる格子をはめ込んであります。この格子は、働きバチは通過できますが、女王蜂は通ることができません。こうすることで、女王が生活する1階部分は産卵と育児の間に、2階部分はハチミツ貯蔵の間になります。新しくできた2階部分には巣礎（写真2）を少しずつ増やしてい

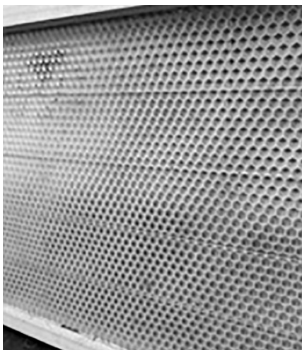


写真2：バラバラの巣礎



写真3：巣礎に盛った巣脾

きます。巣礎はロウでできた膜ですが、これに六角形のハニカム構造がプリントしてあり、働きバチはこれにあわせて、蜜ロウを盛り、巣を作り上げます。これを巣脾と呼びます（写真3）。この巣脾に、2階ではハチミツが貯蔵され、1階は産卵育児の部屋になります。この間女王は産卵し続け、働き蜂たちは巣脾を作りながら花蜜を集め、羽をはばたかせてハチミツの水分を飛ばし、最後に蜜ロウで蓋をします。同時に育児も行うので、分業しているとは言っても蜂たちは忙しそうです。1つの蜂群は2万匹にも達し、優秀な蜂群は20kgほどのハチミツを貯めます。5月初めに初回の採蜜を行います。ハチミツが十分に貯まっているだけでなく、水分が20%程度まで低下している必要が

あるので、採蜜のタイミングは内検でその都度判断します。雨が続いて、働きバチが花蜜を集めることができないと、蜂児（ほうじ）に貯蔵したハチミツを与えるので、ハチミツは減ってしまいます。去年は長雨のためにずいぶん減ったことがあり、「泥棒が来た？」と本気で思ったものです。採蜜は、巣箱の2階からハチミツの貯まった蜜枠（巣脾に蜜がたまったもの）を取り出し、蜂を払い、蜜切包丁で蓋を切って（写真4）、遠心分離器にかけます。ハチミツを絞った蜜枠



写真4：蓋を切る作業

を2階へ戻し、約1か月後の2回目の採蜜へ向けて、蜂たちにはもうひと頑張りしてもらいます。

夏：上記の春の作業時、同時並行して

行っていることがあります。蜂群を増やす作業です。蜂群が大きくなると、働きバチたちは新しい女王を育てるために「王台」と呼ばれる部屋を準備し、女王を促して産卵させ、ロイヤルゼリーを与えて女王バチを育てます。そして新女王が羽化する数日前に、旧女王は働きバチの半分ほどにハチミツをお腹一杯詰めさせて群れを離れ、新しい場所へ引越します。これが分蜂です。これをやられると、蜂屋にとっては損害になるので、分蜂しないようにコントロールし、あるいは王台を利用して新しい蜂群を作ります。また、女王が何らかの理由でいなくなった場合も、働きバチたちは残った卵か若齢幼虫を使って、応急措置として変性王台（Emergency cell）を作り、女王を育成します。その性質を利用して人工的に王台を作ることができるので、春の間に可能な限り増やすのです。今年は250群ほど増やしました。夏の間、この若い蜂群に対して内検、給餌、ダニ防除を中心とした作業を行います。蜂に刺されないように完全防備しているので、ここ数年の猛暑はまさに地獄でした。空調服の開発者にどれほど感謝しても感謝しきれないですが、それでもお昼過ぎにはギブアップです。しょうがないので、朝は5時半から作業開始です。晩酌もそこそこに早寝するのが夏の習慣になりました。

秋：夏の間は気温が高いために、女王はあまり卵を産みません。10月頃になると、ぼちぼち産卵数が増え、蜂群が再び大きくなり始めます。この時期も夏と同じ管理を続けますが、同時にスズメバチ対策が欠かせません。ご存じの方も多いと思いますが、日本ミツバチはスズメバチに対して群れで包み込んで“蒸し殺す”という素晴らしい対策を取りますが、西洋ミツ

バチは個々に、しかも果敢にアタックしていくので数匹の敵に対して数百匹の被害が出ることも珍しくありません。そこで巣箱にトラップを取り付けます(写真5)。また、粘着シートのネズミ捕りに、生きたままのスズメバチを1匹でも捕獲できれば、仲間たちが集まってきて、粘着シートにくっついていきます(写真6)。最初の1匹ですが、ミツバチに夢中になっているスズメバチは案外容易に捕まえることができます。最初は腰が引けたものですが…。



写真5: 被害にあったミツバチとトラップ

冬: 寒くなってくるとようやくスズメバチも去り、蜂屋は冬支度を始めます。巣箱は気温が13度以下では開けることができないので、12月中旬から2月中旬ころまでは給餌もできません。ですから気温が下がるまでに、越冬に十分なハチミツを蓄えさせなければ、春に箱を開けたら餓死していたという悲惨なことになるかねません。砂糖水を十分に与えつつ、で



写真6: ネズミ捕りの効果

も砂糖の価格も高いので出し惜しみしながら、最後のほうは箱を持ち上げてみて、軽い蜂群にだけ給餌していきます。同時に、箱の隙間に新聞紙を詰めて防寒対策をし、巢門(すもん: 巣箱の出入口)を板で狭くして風が入りにくくします。越冬の間、蜂たちは胸の筋肉を動かすことで発熱し、巣箱の中心部は35度ほどに保たれます。そのためのエネルギーとしてもハチミツの蓄えは重要なのです。深々と冷え込んだ頃、ミツバチのお世話の1年は終わりになります。

が、しかし…、養蜂修行の頃は冬の間は遊べるのでは? と思い込んでいたのですが、とんでもありませんでした。蜂の入っていない空箱の掃除・消毒・防腐剤塗り、餌箱の作成、ポリネーション用にイチゴ農家さんへ貸し出している蜂群の世話など、仕事が尽きることはないのです。

## 「研究室仲間との大人修学旅行 vol.2 宮崎編」

瀧川(犬童) 憲洋(農S52卒)

農学部農学科植物育種学研究室で共に学び遊んだ仲間の恒例行事として、昨年の熊本阿蘇旅行に引き続き、今回は宮崎市への現地集合現地解散の「大人一泊修学旅行」を挙行致しました。メンバーは1学年先輩の土屋秀二氏、村田達郎氏、北野常盤氏、同学年の深水清秀氏、前田浩二氏と筆者の6名です。令和7年10月17日(金)に村田氏は熊本県菊池市から、北野氏は山口県岩国市から、前田氏はいちき串木野市から、深水氏と私は鹿児島市からそれぞれ移動し、現地集合となりました。以前、転勤で宮崎市に住んでいた私にとって久しぶりの宮崎訪問



写真①: 郷土料理店の前で(左より深水氏、前田氏、村田氏、筆者、土屋氏、北野氏)

であり、移動のJR電車からの車窓と共に懐かしい宮崎の風景でした。

先に到着した村田氏と私は宮崎市在住の土屋氏の案内で宮崎県立図書館を訪れました。県立図書館のあるエリアは県立美術館や県立劇場、それに広々とした公園も併設した総合文化公園で、昭和の終り頃郊外に移転した宮崎大学農学部キャンパス跡地にあります。その後、1932年に建造され現在国登録有形文化財建築物に指定されている宮崎県庁本館見学ガイドツアーに参加し、ガイドの方の丁寧なご案内のおかげで現在も現役で県行政の機能を果たしている歴史的建造物の奥深さに五感で触れることができました。

夜は、繁華街橋通りの宮崎郷土料理のお店で6名全員揃っての楽しい酒宴となり、美味しい宮崎料理と鹿大時代の懐かしい話を肴に大いに盛り上がりました(写真①)。



写真②: 青島・鬼の洗濯板背景に

翌日、先に帰

路に着いた前田氏を除いた残りのメンバーは土屋氏の案内で宮崎市南部の観光地青島エリアを訪れました。ビロウジュ等の亜熱帯植物に包まれた青島と周辺の「鬼の洗濯板」や青島ビーチ等の向こうに広がる雄大な太平洋を垣間見た感じがします(写真②)。その後、県立青島亜熱帯植物園(別称“宮交ボタニックガーデン青島”)で美しい園庭や温室の亜熱帯植物に魅了されました。ボランティアガイドの方の親切丁寧なご説明に学ぶことも多く、農学部卒業生らしく園内を歩きながら植物談議に文字通り花が咲きました(写真③)。

以上のように、あつという間の宮崎市への“大人修学旅行”でしたが、気のおけない研究室仲間との旅は

とても楽しくかつ学びの深い有意義なものでした。次の旅行での再会を約束して笑顔で別れました。次回が本当に楽しみです。

最後になりましたが、今回ホスト役を担って頂いた土屋先輩にあらためて感謝する次第です。



写真③：青島・宮交ボタニックガーデンにて

## アフリカ大陸最高峰・キリマンジャロ山行記



キリマンジャロ山頂(正面が筆者)

福岡支部  
栗之丸 隆太郎  
(園 S52卒)

### 1 キリマンジャロを目指した理由

私は、高校の山岳部に入部してから登山を続けています。特に、仕事を定年退職してからは海外の山を含めて、国内、海外の登山にチャレンジしています。今回の山行はアフリカ・タンザニアのキリマンジャロ(5,895m)を目指しました。理由は3つです。①アフリカ大陸の最高峰に登りたい②アフリカの氷河を見たい③アフリカの人々との交流やアフリカの特有な植物を見たいということです。

### 2 今回の登山の概要

日程は2025年9月4日～15日で、私たち日本人はツアーリーダーを含めて、11名のパーティーでした。サポートしてもらう現地の人は、ガイド6名を含む、ポーター、キッチンポーター、トイレポーターのなんと総勢52名でした。登山口(1,800m)から今回は6泊7日のテント泊を含んでいたため、食料、調理用のガスボンベ、山岳用テントなども担いでの山行でした。ネパールのように動物が大きな荷物をのせて移動するのではなく、ポーターが頭に載せたり、担いで山道を歩いていました。テント泊で毎日、5～8時間の高度順応しながらの登山で、食欲と体力は落ちてきます。日本を出発して8日目のキリマンジャロの登頂日の前夜23時に満天の星の中、バラフキャンプ(4,640m)を出発。ハイライトの日が始まりました。ヘッドランプの明かりを頼りにつづら折りの道を登り、ステラ・ポイント(5,730m)に登頂。その後、さらに奥

の山頂ウフル・ピーク(5,895m)に登頂しました。その後、バラフキャンプ経由でミレニウムキャンプ(3,820m)まで下山しました。行動時間は15時間、標高差もありハードで長い1日でした。この日は特にきつい時、一緒に登った現地のポーターたちの「ポーレ、ポーレ(ゆっくり、ゆっくり)」「モージ、モージ(1歩、1歩)」の元気な掛け声、歌に勇気づけられながら登頂することができました。氷河は以前20mあったものが、8mになっており、地球温暖化の影響を直視することになりました。

### 3 アフリカでの経験(天候、景色、高度順応、植物)

9月は乾季で、期間中全く雨が降りませんでした。午後から雨が降って、景色が見えないこともあるのですが、お陰様で、景色、星空も最高でした。ホコリ対策は必要でした。気温は標高が高くなるとテント内でも-2℃、山頂では-8℃でした。これは予想外に、暖かく、この時期-20℃、風速10mの山頂では5分も留まることができなかったこともあるとのこと。この日は快晴でとてもラッキーでした。高度順応には苦労しました。パルスオキシメーターで血中酸素濃度を測りながら、何度も深呼吸しながら酸素を取り込んでいきます。頭痛、風邪の対策もし、保温もしました。キッチンポーターが作ってくれる食事は日本人向けに工夫しており、にっこり微笑んで、お代わりを勧めてくれる姿にほっとしました。ただ、食欲が落ちてくると、やはりおかゆとみそ汁がのど通りを良くしてくれました。アフリカの固有の植物を見て、ダイナ



アフリカ大陸の植物

ミックな景色とともに感動しました。

#### 4 結びに

今回の山行でアフリカの人々の体を労わってくれる優しさと歌で励ます元気に触れました。私がガイドの子どもさんのことを聞くと、写真を見せながら話してくれた時の明るい笑顔は忘れることができません。人種を超えるものは、「笑顔と感謝の気持ち」であると思います。登山へのチャレンジは今後も続きます。あ

る人が言いました。「やりたいことを、できる時にしておく。会いたい人には、会える時に会っておく」年齢を重ねても、経験は何事にも代えがたいと考えています。

結びに、寄稿の機会をいただきました、あらた同窓会並びに園芸学科の先輩でもある富永茂人常任副会長にも感謝を申し上げます。

## 学 生 便 り

(「ビバキャンパスライフ」および「留学体験記」)



### 奄美大島での7日間

農業生産科学科・応用植物科学コース  
植物育種学研究室 学部3年

服部 匠真・縄田 直季  
(それぞれ写真左と右)

私たちは12月の初めに、奄美大島で5日間の農業実習に参加した。農学部に入學して3年、これまでの大学生活では自ら進んで学びに行くことは少なく、せっかく鹿児島で農業を学んでいるのなら鹿児島らしい体験をしないのは勿体ないと考えようになったため、この機会に一度も訪れたことがない鹿児島の離島で農業や植生について学ぶために奄美大島に行くことを決めた。

この実習では、離島での農業がいかに多くの制約を受けながら営まれているかということが理解できた。島内には大規模な生産ができるような広大な農地は少なく、ほぼ毎年台風の被害を受ける上に、生産物の本土への輸送コストも高い。しかし、現地の農家の方々はこうした地理的な制約は、高収量作物の導入や、台風の被害を受けにくい根菜類を多く栽

培することなどにより克服し、経済的な制約も6次産業化を進めることで克服するなど多くの工夫を凝らしていた。また、豚の飼育にサトウキビの搾りカスである廃棄物を飼料として再利用し、循環型の農業を実践することで資源の限られた離島の中でも無駄の少ない生産を実現していた。このような工夫を実際に目で見て体験し、離島、ひいては島国である日本の農業の在り方について考えを深める貴重な機会となった。

また、受け入れ先の農家の方々にキャッサバやパイヤ、ミキ、黒糖焼酎など本土では口にする機会が少ないものをたくさん振舞っていただき、帰りのフェリーでは揺れるデッキの上で潮風を浴びながら満点の星空を眺めるなど、普段の日常では味わえない新鮮な体験ができた。このような実習ができたのも、奄美大島で受け入れてくださった方々や仲介してくださった先生方のおかげであり、この場を借りて感謝を申し上げたい。

今回の実習で得た知見を今後の学びに活かすとともに、自ら学ぶ姿勢を大切にしながら今後の大学生活でも様々なことに挑戦していきたい。



### 4年間を振り返って

農業生産科学科 畜産科学コース  
栄養生化学・飼料化学研究室 学部4年

新宅 水織

入學した当初、当時の先輩方から「大学の4年間なんてあっという間だよ」と言われた時は正直なところ信じられませんでした。高校までとは違い、自

由な時間が多い大学生活の4年間は長く感じられるものと思っていたからです。今振り返ってみると、その言葉の通り、この4年間はあっという間に時間が過ぎていました。

特に研究室配属後の2年間は驚くほど早く感じます。研究室のみんなで取り組んだインターンシップや狩猟免許の取得、全日本大学対抗ミートジャッジング競技会への参加、大学院入試の受験、卒業研究に伴うブロイラーの飼育や日々の研究活動など、非常に充実した生活でした。思うような結果が得られずに悩んだ

期間もたくさんありますが、その都度試行錯誤を重ね、自分の成長に繋がれたと思います。

その中でも、卒業論文の一環として行った食味官能評価試験は特に印象に残っている経験です。もともと、自分の研究が食卓にどのような影響を与えられるのかということに関心があったため、消費者に実際に食味していただき、直接評価してもらえたことがとても嬉しかったです。官能評価の実施にあたっては、スープの作製や評価項目の設定、回答用紙の用意など事前準備に多くの時間を要しました。

評価終了後もデータの整理や統計解析、結果の解釈などたくさんの作業がありました。また、この結果を発表した中間発表では、自分だけでは考えられなかった、人に評価してもらった結果だからこそ考えられる考察を指摘していただき、より多角的に研究に対して向き合えるようになりました。

今後は大学院に進学し、これまでの経験を基にしてより深く研究に取り組んでいきたいです。残りの2年間も1日ずつ大切にしながら、成長し続けたいと思います。



### 部活を通して感じたこと

農業生産科学科 食料農業経済学コース  
農業経済学研究室 学部3年  
佐伯 憲汰

鹿児島大学への入学が決まった時、所属していた部活の顧問の先生から、祝福よりも先に「鹿児島大学のハンドボール部強いらしいよ」という予想外の言葉が出てきました。私の高校のハンドボール部は大会で初戦敗退するような、弱小校でした。対して鹿児島大学のハンドボール部は全国大会に行くほどの強豪校。しかし、受験も思うようにいかず、部活でも結果を残すことなく、何かに向かって必死に努力をしてこなかった私は、自分を変えるべく鹿児島大学ハンドボール部への入部を決めました。

入学して体験入部へ行くと、レベルの高さに圧倒され、練習に参加することなくただ見ていました。しばらくして練習に参加してもミスやうまくいかな

いことの連続、右も左も分からず当初はただ練習に参加することだけで精一杯でした。仲間とも打ち解けて部活の雰囲気にも慣れた頃、初の公式戦で負ける悔しさよりも役に立てないことの悔しさを経験し、うまくなりた、チームに貢献したいと強く思うようになったのはこの頃からでした。そんな時、部活の監督が私に目指すべきプレイヤー像とそれに向けたトレーニングを丁寧に教えてくれました。克服すべき課題は今も残っていますが、そこから少しずつ上達を感じることができました。

何かに挑戦するとき、すぐに結果を求めてしまいがちですが、大切なのは自分が何を選択し、それに向き合おうとした過程なのではないでしょうか。たとえ才能がないと感じ気持ちが沈んでも、なりた自分に向かって諦めず続けていると、それを支えてくれる人や応援してくれる人に出会うと思います。思うような結果が出なくとも、継続したその道のりや人との出会いが自分の中でかけがえのないものになると私はハンドボールを通して感じました。



### サッカーが教えてくれたこと

食料生命科学科 食環境制御科学コース  
植物栄養・肥料学研究室 学部3年  
里山 昂大

私は3歳の頃にサッカーを始めました。そして今も大学のサークルに参加しており、約18年間サッカーを続けています。

私がサッカーを始めたきっかけは、幼稚園にあるサッカーチームに参加したことです。幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と場所が変わってもずっと

続けてきました。しかし、始めから今までずっと順調に続けてきた訳ではありません。小学生の頃は練習の成果が上手く試合で発揮できず、当時の監督からも怒られる機会が多い時期がありました。そのことで約2ヶ月間練習にも参加せず、辞めてしまいそうになりました。しかし、またサッカーをしたいという強い気持ちがあり再び練習に行くようになりました。中学生の頃は部活動ではなくクラブチームで活動を続けていました。片道約1時間かけて練習に通うという生活でしたが、大きな怪我もなく順調に続けることができました。しかし高校1年生の10月ごろ、試合で鎖骨骨折という大きな怪我を負いました。次は高校2年生の11月に手首を骨折、そして続

けて足首を捻挫しました。高校生に入ってから怪我が続く状況でしたが、一度も辞めたいと思ったことはありませんでした。高校生に入ってからには学校の部活動に参加しており、仲間にも恵まれ心から楽しく、自由に活動してきました。高校に入ってから試合では得点を決める機会も多く、チームの勝利にたくさん貢献することができました。

ここで、何事も続けていくために、そして良い結果を出すためには、好きでいること、楽しむということが1番なのだと感じました。これからの人生様々なことがあると思いますが、この継続力を生かして、何事も楽しく、1つの事、出会う人々を長く大切にしていこうと思います。



## インターンシップを通しての成長

食料生命科学科 食品機能科学コース  
生命高分子化学研究室 学部4年  
茶蘭 佳果

私は4年間の大学生活の中で様々な出会いや経験を通して多くの思い出を作ることができました。その中でも最も印象に残っていることは10日間のインターンシップに参加したことです。

私は2年生の夏休みにカミチグループのインターンシップに参加し、担当者から「若者の来客数を増やし、お客様に生産者の思いを伝える」という課題を提示されました。その課題を解決するために、1つ上の先輩2人と担当者と共に、まずは農場や直売所の現場体験をして現状を把握することから始め、課題解決策として直売所でマルシェを企画し実施しました。マルシェ開催に向けて何度も話し合いを重ね、露店を出すだけでなく、生産農家の思いをまとめた自作動画の再生や抽選会も行い、直売所

の来客数を増やして多くのお客様に生産者の思いを知ってもらうことができました。初めは3人の参加者の中で1人だけ年下でついていけるか不安でしたが、その不安は先輩方と担当者のおかげですぐ無くなりました。私はこのインターンシップで課題解決力を向上させることができましたが、それ以上に先輩と担当者から学んだことがあります。それは団結力や人間性です。誰も置いていかない話し合いの仕方や人とのかかわり方、細やかな気遣いや向上心などに刺激を受け、私もこんな大人になりたいと思いました。先輩についていくのに必死になりながらも、課題解決のために力を合わせて頑張った夏休みはとても楽しく成長できた時間でした。インターンシップに参加して尊敬できる先輩と担当者に出会えたことにとっても感謝しています。

そんなインターンシップからもう2年半が過ぎ、4月からは就職して新しい生活がスタートします。このインターンシップでの経験を活かして成長しながら、これからの生活をもっと楽しんでいきたいと思っています。



## インターンシップ体験記

食料生命科学科 焼酎発酵・微生物科学コース  
応用分子微生物学研究室 学部3年  
道添 晴美

私は8月下旬の2日間、鹿児島県庁農政課（かごしまの食輸出戦略室・ブランド推進室）にてインターンシップに参加しました。地元である鹿児島県庁において、技術職がどのような業務に携わっているのか、また実際の職場の雰囲気を知りたいと考えたことが参加のきっかけです。

実習初日は、農政課およびかごしまの食輸出・ブランド戦略室の業務内容について説明を受けた後、

フードコミュニケーションの視察に同行しました。県内企業の特徴ある取り組みや商品展開にふれる中で、鹿児島の食を国内外に発信していく県庁の役割の大きさを実感しました。その後、輸出促進ビジョン策定検討委員会を傍聴し、鹿児島の食の価値を高めるための方針がどのように議論されているのかを学びました。2日目には、県庁内の生協売店で販売されている商品の食品表示確認を職員の方とともにを行い、さらに鹿児島の食に関する情報発信を目的としたウェブサイトやSNSの内容について意見を出す機会をいただきました。

フードコミュニケーションの視察では、県の事業が想像以上に幅広く展開されていることを知りました。デスクワーク中心の業務を想像していましたが、実際には現場での体験や関係者との交流を通じ

て食の魅力伝える取り組みが行われており、行政の仕事が多様な関わりの中で成り立っていることを実感しました。

また、職員の方々との交流を通して、鹿児島県の農業の特色や降灰対策など県独自の施策について学び、これまで知らなかった鹿児島の課題や魅力に気

づくことができました。本インターンシップは、将来の進路を考える上で大変貴重な経験となりました。最後に、本インターンシップを通して多くの学びを得る機会をいただいたことに、深く感謝いたします。



## 雑多で鮮やかな キャンパスライフ

農林環境科学科 森林科学コース

森林保護学研究室 学部4年

新川 茉和

馬小屋横の通用門から大学に入り研究室に向かう途中、赤い実をたわわにつけ、枝先に葉が集まるあの木はヤマモモ。いつもの散歩道、サクラの木の樹皮に模様をつけているのは、地衣類。木々の足元を見ると傘を広げた小さなキノコが背を伸ばして立っている。今の私の世界は4年前と比べものにならないほど鮮やかになった。

私の世界をこんなにも鮮やかにしてくれたのは、4年間のたくさんの経験だ。みんなで泥だらけになりながら高隈演習林で植林したこと、チェーンソーで高さ20メートル超えのスギを切り倒したこと、たくさんの葉を触り、頭を抱えながら樹種を必死に暗記したこと、驚くようなスピードで木を伐採する重機に圧倒されたこと、林業の抱える課題について真剣

に議論したこと。到底ここには書ききれない。本当に、本当にこの4年間楽しかった。

1年生の春は、不安8割、期待2割。私は入学以前、別の大学で全く別のことを学んでいた。無念の中退の後、絶望の期間を経て、もう一度つかんだ学びのチャンスだった。周囲に馴染めるか、ここで上手くやれるだろうかと正直なところ不安だった。しかし、年齢の違いがあっても友人と一緒に学食を食べてくれた。大学での学びに積極的な人が多く、どの講義も一緒に意欲的に取り組めたことが嬉しかった。私の性質を評価してくださる先生方のおかげで、元々好きだった学びがさらに好きになった。

そうして振り返ってみると私のキャンパスライフは、いわゆる「薔薇色」一色ではなかった。それよりもずっと美しい「雑多で鮮やかな色」をしていた。鹿児島大学での経験は、私の今後の人生をも鮮やかに彩ってくれるに違いない。一緒に学んだ友人、学びを与えてくれた先生方、そして支えてくれた両親へ、心の底から感謝を伝えたい。最高なキャンパスライフをありがとうございました！



## 芽生えた関心がアフリカ研究 へ繋がるまで

農林環境科学科 地域環境システム学コース

利水工学研究室 学部4年

廣瀬 由佳

私が農学部へ進学したのは、将来は開発途上国が抱える課題の解決に携わりたいという思いがあったからです。そのきっかけは、小学生の時に読んだ『ゾウの森とポテトチップス』という本でした。私たちの身近な食品や日用品を生産するためには自然環境や本来の暮らしを奪われている開発途上国の存在があり、自分も知らず知らずのうちに開発途上国の自然環境や人々の本来の暮らしを奪う加害者になっていることに気づき衝撃を受けました。この事実を知り、遠く離れた途上国で起きている社会問題

にも、私たち一人一人が深く関わっているという当事者意識が芽生えました。

入学当初は、開発途上国の問題に対して支援をすれば解決できると漠然と考えていました。しかし、授業を通して学んでいく中で、実際に支援を行っても現地の文化や価値観に合わず受け入れられないことがあることを知りました。その背景には、ある一つの問題に対し、政治や貧困などの社会情勢が互いに深く関わり合いながら進行しているため、特定の分野からのアプローチには限界があり、課題解決には特定の分野の知識にとどまらず、多様な視点を組み合わせたアプローチが不可欠だと考えるようになりました。そこで4月から文系理系という枠を越えて、特に課題が顕著であるアフリカ地域について総合的に学べる大学院へ進学し、アフリカの水問題について研究する予定です。日本で「かわいそう」「遅れている」といった一面的なイメージで語られ

がちなアフリカですが、現地におけるフィールドワークを通して、自分の目でアフリカの本来の姿を学びたいと考えています。

大学4年間を通して、自身の関心を育み、将来の

研究へと繋がる土台を築くことができたと感じています。大学院では大学で培った学びと視点を活かし、誰かの役に立てるようにひたむきに頑張りたいと思います。



## 世界へ踏み出した キャンパスライフ

国際食糧資源学特別コース  
ナノバイオテクノロジーラボ 学部4年  
三浦 明久梨

私は将来、アフリカの食糧問題を解決したいという夢を持ち、国際コースに進学しました。海外研修や卒業プロジェクトなど、在学中に世界へ飛び出せる機会が数多くある点に加え、アジアやアフリカの食料・農業について学べる点に、入学前から魅力を感じていました。実際に入学後は、私と同じように国際的な課題に関心を持つ学生が多く、授業内外で意見を交わしながらお互いを高め合える環境がありました。

入学前から海外研修を見据え、1年次に大学間協定校派遣留学に応募し、2年次にはオーストラリアのニューイングランド大学の農学部で1年間留学しました。大学は田舎にあり、大自然の中で農業を学ぶ日々は、とても印象に残っています。言語も文化も異なる環境で一人暮らしをすることは決して簡単では

ありませんでしたが、その経験は自分の視野を大きく広げ、その後の海外活動の土台となりました。

帰国後は、鹿児島大学に在籍する留学生と積極的に交流し、英語力の維持・向上に努めました。彼らとは帰国後も連絡を取り合い、実際にフランスやドイツへ訪問するなど、大学を越えたつながりへと発展しました。

インドネシア研修では、現地学生と円滑にコミュニケーションを取りながら学びを深めることができました。また、卒業プロジェクトでは、アフリカのマラウイに2か月間滞在しました。培ってきた英語力で研究はスムーズに進みましたが、文化や生活環境が大きく異なる中で、なかなか経験できない貴重な体験を得ることができました。

思い立ったらすぐ行動し、何事も楽しむ。その積み重ねが今の自分をつくっています。これらの学びと出会いは、私にとってかけがえのない財産です。この4年間の経験は、支えてくださった先生方、友人、家族のおかげで成り立っています。感謝を胸に、これからも世界で活躍していける人間になりたいと思います。



## 「海外インターンシップ」海外開発 プロジェクトの最前線を体験して

大学院農林水産学研究所・環境フィールド科学専攻  
環境システム科学コース 農地工学研究室 修士1年  
岩田 知起

私はJICAのプログラムを利用し、2025年8月20日から9月19日まで八千代エンジニアリング株式会社ジャカルタ事務所でインターンシップに参加しました。

昨年3月、私はバックパッカーとなり、東南アジア6ヶ国を周遊しました。見たことがない色の河川



ジャカルタの地下排水路の視察

や、舗装ない悪路を飛び跳ねながら走るバイクに衝撃を受けながら、インフラの未整備や環境汚染の実態を目の当たりにしました。そして、旅の最終日にはミャンマーでの大地震がありました。私は当時タイに滞在していて、突然止まった地下鉄を降りると現地の人がまさに慌てふためく様子で防災への課題を強く感じました。そのような経験から、海外開発に携りたいと強く思うようになりました。



バダンの現地調査

インターンシップでは、インドネシア西スマトラ州バダンの洪水対策プロジェクトに参加させていただきました。現地踏査では、現況河川の災害状況やどう改修するかを学習することができ、昔、教科書で見た

ままの国際協力の姿が非常に印象に残っています。パダン料理は辛さが特徴と聞き、辛い物が苦手な私は覚悟して臨みました。あの日、朝食で食べたナシゴレンは想像をはるかに上回る辛さで気づくと涙が出ていました。世界の多様な食文化に今後も挑戦しながら、その場所に根差した課題解決ができる技術者になりたいと思います。ジャカルタ事務所では、河川改修に関わる実習をさせていただき、今まで学んできたことを応用できる貴重な機会でした。

インターンシップを通して、国際技術協力について非常に高い解像度で理解することができました。

同時に、開発途上国の経済成長に伴い、求められるニーズも多様化していることに気づきました。衣食住すべてに関わる農学部にも所属する私たちだからこそできる、自分だけの国際技術協力への関わり方を探してみませんか。



ジャカルタのオフィスでローカリストと昼食



## 「留学体験記」 笑いあり 涙ありのハワイ留学

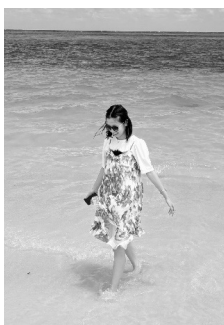
農業生産科学科 応用植物科学コース

熱帯作物学研究室 学部4年

櫛山 莉奈

私は、2024年8月から2025年5月まで鹿児島大学の派遣留学制度を利用して、ハワイ大学マノア校に交換留学をしました。今回は、大学生活と日常生活の点から留学生活についてお伝えできればと思います。

まず、大学生活についてです。ハワイ大学では、専門の講義をいくつか履修していたのですが、留学開始から1、2ヶ月は、教授や学生の話すスピードが速すぎて、ほとんど聞き取れず、授業についていくのが大変でした。また、日本の大学よりも課題が多く、毎日課題に追われていました。しかし、留学後半になると、話のスピードにも慣れ、授業中のディスカッションにも参加できるようになりました。また、課題の量にも慣れ、少しずつ英語力が上がっていることを実感でき、自信につながりました。



ラニカイビーチにて (筆者)

次に、日常生活についてです。食事面では、寮の食事が合わず、大変でした。一方で、学外にはアサイーボウルやポキ丼のお店など、美味しい食べ物がたくさんありました。また、休日には友人たちと一緒に様々な観光地に行ったり、長期の休みには、近くの島に旅行に行ったりしました。ハワイならではのシュノーケリングやサーフィンにも挑戦しました。特に、クリスマスに友人たちとワイキキビーチで泳いだことが日本ではできない経験で印象に残っています。留学開始当初は、友人ができるのか不安でしたが、留学を通して、様々なバックグラウンドをもつ友人ができました。英語力よりもリアクションや自分の意見を伝えようとするのが重要だということ学びました。

最後に、約10ヶ月の留学生活は、初めて経験することばかりで全てが新鮮でとても充実した留学となりました。今回の留学を支援してくださった全ての方々へ心より感謝申し上げます。



ハロウィンの仮装 (左端が筆者)



台湾の石岡壩  
(ダム) にて

## 「留学体験記」 台湾研究留学 で広がった学びと出会い

大学院農林水産学研究所・環境フィールド科学専攻

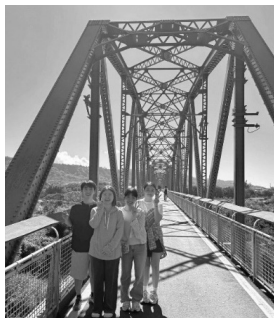
環境システム科学コース 農地工学研究室 修士2年

三浦 菜名穂

私は修士課程2年次に、約2か月間台湾の中部・台中市にある国立中興大学で研究留学をする機会を得ました。「景観與遊憩」研究室に所属、GISを用いた土地利用変化と炭素貯蔵量の変化をテーマとする研究プロジェクトに参加しました。本留学は、台湾国家科学及技術委員会による日台青年研究者交流事業に採択されて実現したものです。学生自身が受入先教員に連絡を取り、研

究テーマを決めたうえで、申請・報告を行うことで支援を受けられる制度です。

私の専門は農地工学分野の土壌や侵食に関する研究であり、GISや炭素貯蔵評価は専門外でした。しかし、あえて異なる分野に挑戦したことで、研究の視野が大きく広がり、自身の研究を別の角度から捉える良い経験となりました。研究を進める中では、現地の先生や学生に多くのことを教えてもらいながら共同で作業を行い、議論を重ねる日々を過ごしました。



研究室の友達と小旅行（九號隧道）

台湾での生活は、研究面だけでなく人との出会いに恵まれた時間でもありました。台湾の人々はとても親切で、食事も美味しく、生活するほどに台湾が好きになっていきました。研究室の学生たちと文化や観光、現地の習慣などを共に体験する中で、留学生としてではなく、一人の友人として迎え入



研究成果の最終プレゼン発表会

れてくれたことが印象に残っています。英語が通じない場面も多くありましたが、その分、現地の中国語を学ぶ機会も増え、より深い交流につながりました。

今回の留学を通して、海外に信頼できる友人ができ、今後も連絡を取り合える関係を築けたことは、私にとって何よりの財産です。研究職を目指す立場としても、また一個人としても、友人をつくり、その国の生活や文化を知ること、現地でしか味わえないものであり、留学で得られる最も大きな価値だと思います。人も温かく、ご飯も美味しい台湾は、心からおすすめできる場所です。



研究室でのパーティー



ゼミ後の夕食の様子

## 学生便り（卒業・修了にあたって）



### 出会いは成長の「タネ」

農業生産科学科 応用植物科学コース  
比較環境農学研究室 学部4年

上川 夏末

鹿児島で過ごした4年間は私にとって大きな財産となりました。大学の講義、研究室での活動、サークル活動など、思い返してみると多くの人との出会いや学びがありました。

1、2年次に受講した共通教育。自分の興味が湧いたものはとりあえず履修し、様々な分野のことを学ぶことができました。医学部の学生と硫黄島でのフィールドワーク、「8.6水害」を経験された方を探してインタビュー内容を文字起こし。農学とは全く関係ないように見えるユニークな活動でも、後になって思い返してみると他分野の世界を知るきっかけとなり、1つの視点に捉われない広い視野を持つことに繋がったのではないかと思います。

そして、私の大学生活の中で最も大きな柱となったサークル活動。過疎地域での農作業の手伝いや地域の方々との交流、五感で自然を感じるキャンプやフィールド基礎実習のSA（Student Assistant）など、ここでは書ききれないくらい様々な経験をしました。多くの出会いと経験を通して多様な「生き方」を知り、自分自身の考え方も変わったように感じます。また、先輩や後輩、地域の方々にも恵まれ、家族ではないけれど家族のような温かさと落ち着きを感じる大切な存在ができました。

「出会いは人生を変える」という言葉があるように、私自身も4年間で多くの人に出会い、多くの刺激を受けてきました。植物は「種」から始まり大きく生長します。同じように人は出会うことを「タネ」として大きく成長すると思います。知らない世界、知らない価値観に触れ、その経験すべてが肥料となって自分自身を成長させてくれるのではないかと思います。

きっとこうやって思うことができるのもこれまでの出会いのおかげだと思います。出会いに感謝し、

学生生活を支えてくれた仲間や家族、先生方への感謝の気持ちを忘れず、来年からはJICA海外協力隊員

として世界で頑張ります！！



## 学生期間の貴重な体験

農業生産科学科 食料農業経済学コース  
農業経営学研究室 学部4年  
宗像 大和

いよいよ卒業が間近に迫り、私が大学生として過ごしたこの4年間を振り返ると、これまでの人生よりも格段に興味や知識の幅を広げることのできた期間であったように思います。

特に2025年は、多くの体験や経験を得た濃密な1年でした。

例えば、3月から7月にかけては、ロッテンブルク林業大学において開設されている科目「Resilient Agriculture」を受講しました。授業や課題・発表等もすべて英語、受講者に日本人は1名、時差の関係で深夜に開始される講義という状況の中、毎週の講義を理解するため、BBCやYouTubeを活用してより多くの英語に触れ、結果として、科目を修了することができただけでなく、英語という文化やその歴史にも興味や愛着が湧きました。

また、同じ3月には、坂の上にあるという理由で敬遠していた長島美術館に初めて行き、そこで、薩摩焼に出会いました。中でも庶民の生活雑器であった「黒薩摩」の素朴で味のある風合いに心を惹かれ、その後も美術館で薩摩焼の展示に目がいったり、窯元巡りをしたりと新たな趣味となりました。

11月に「離島へき地のOne Health」という授業で三島村を訪問したことも鮮烈な思い出となっています。これまで具体的に想像のついていなかった離島の生活や産業も、夜に堤防から眺めた星空も、2泊3日の船旅も、どれもこれもこの授業でなければ味わうことも知ることもできないものでした。

こうした体験を重ね、大学院の入試や卒業論文の執筆などにも取り組み、今では学部生として過ごす最後の年を自分なりに有意義に過ごすことができた実感することができています。

最後に、こうした貴重な経験を与えてくださった方々や最後まで熱心にご指導くださった先生方に感謝しつつ、これから始まる大学院生活も実りあるものとするように最善を尽くしていきたいです。



## 未来はきっと答えをくれる

農林水産学研究所 食品創成科学専攻  
焼酎製造学研究室 修士2年  
楊 又匯靈 (YANG YOUHUILING)

私はこれまでずっと、慌ただしさに追われるように生きてきました。だからこそ、こんなにもゆったりとした街で暮らす日が来るなんて想像もしていませんでした。ここでは生活のリズムが穏やかで、人々の歩幅さえもどこか静かです。その時間の流れに身を置くことで、私は初めて立ち止まり、自分自身を見つめ直し、本当に望んでいるものに目を向けられるようになりました。

未来がどうなるかはまだわかりません。けれど、25歳という年齢は、まるで朝7時半、太陽が昇りはじめる瞬間のような人生の出発点だと思います。これまでの苦労は決して無駄ではなく、これからの私

を強くする糧になるはず。鏡に映る私は、勇敢で、いきいきとして、自由でした。夜の静けさの中で海面にそっと浮かぶ月のように、静かでありながら確かな光を宿している—そう信じています。

日本に来てから足を捻挫するなんて思いもしませんでした。この出来事は大きな打撃で、留学生活が終わってしまうのではないかとさえ感じました。それでもこの2年間、辛い瞬間があっても「自分で自分を支える」ことをやめませんでした。そして周りの人たちにも支えられ、途方に暮れるような時に差し伸べられた手に、心から感謝しています。そのおかげで私は少しずつ強くなり、自分を信じてチャンスをつかめるようになりました。

勇敢に願いをかけよう。そして、小川のように前へ進もう。岩に出会えば迂回し、干潟に出会えば浸透すればいい。思い描いた直線から大きくずれたとしても、恐れなくていい。すべてを忘れ、手放したその先で、願いの力は重力や高低差のように、いつか私たちを海へと導いてくれるでしょう。



## ありがとう、そしてこれからも

農学科 植物資源学プログラム

土壤科学研究室学部 4年

山田 凜

「農業大学校という道もあるよ」—その一言が、私の進路を決めた。佐賀県立農業大学校で農業の基礎から実践を2年間学ぶ中で、土壌病原菌という不思議な存在に惹かれ、私は鹿児島大学へ3年次編入した。

最初の授業は唐湊果樹園での接ぎ木である。開始早々に話しかけてくれた男には密かに感謝している。そこから一気に交流が広がり、楽しい学生生活の幕を開けた。前期の打ち上げではセミを食べた。「エビの味がする」と言われたが、私には理解できなかった。もう二度と食べることはないと思う。

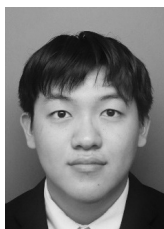
ハマったのは散歩で、友人と桜島を12時間かけて歩いて1周したり、夜中の吉野公園まで遠征したりと意味不明な活動が続いた。冬に雪が降ると小学生のようにはしゃぎ、階段で転んで腰を強打。翌日に風邪をひいたが、周囲は全員元気だった。その他に

もタコ焼きパーティや鍋パーティが開催され、話題は恋愛が中心。しかし22年間彼女いない者たちの集まり。収穫はほぼなく、最後は決まって「今年こそは彼女を作るぞ」で締まるのがお約束だった。

3年の途中、雲南省への短期研修にも参加した。少人数だったがとても充実しており、異文化に触れる良い機会となった。

4年生になると、私は二度の過ちを犯した。第一はバイト先の飲み会で、開始1時間半で泥酔し、気づけばカラオケで熱唱していた。後日、社長や料理人に絡んでいたと知り、動画まで残っていた。第二は宮崎大学土壌肥料学研究室との交流会である。ここでも泥酔し、先生方に大変お世話になった。翌日、研究室の仲間からの一言「きもい」。もう同じ過ちは繰り返さないと決心した。

そんなこんなで次は大学院生になる。土壌病原菌に惹かれ研究し、留学し、腰を打ち、風邪をひき、セミを食べ、仲間と笑い、失敗し、そして少しだけ成長した。楽しい時間をありがとう。そしてこれからお世話になる皆さま、どうぞよろしくお願ひします。



## 鹿児島での4年間

農林環境科学科 スマート農学コース

農業環境システム学研究室 学部 4年

大川 航征

鹿児島大学に入学してから早くも4年の歳月が流れました。この4年間、鹿児島の特徴ある風土に触れながら、サークル活動やアルバイト、学問と、数多くの貴重な経験を積むことができました。その中でも特に心に残っている出来事を紹介します。

1つ目は、ボランティア活動です。3年次の夏、県内の河川における生物・水質調査に参加しました。愛知県出身の私にとって鹿児島豊かな自然は驚きの連続であり、地域の子どもたちとの交流も大きな刺激となりました。調査を通じ、彼らの純粋な視点から地元の様子や風土を学んだことは何よりの収穫でした。

2つ目は、学問への情熱を方向付けてくれた講義と研修です。農林環境科学科での学びを通じ、私は次第

にスマート農学へ強い関心を持つようになりました。きっかけは1年次の農機研修です。自動走行トラクターや無人航空機といった最先端技術の革新性に圧倒されたことが、現在の「スマート農学コース」への進学を決定付ける大きな契機となりました。

3つ目は、大学生活で最も印象深いドローン合宿です。コースの講義の1つとして農薬散布用マルチコプターの資格取得に挑みました。操作の難しさに苦労しましたが、それ以上に操縦の楽しさに魅了され、後に無人航空機の国家資格も取得しました。卒業論文で直接活用する機会こそありませんでしたが、ここで得た技術と知識は、大学院やその先の人生において必ず活かしたいと考えています。

このように、鹿児島での日々は私を大きく成長させてくれました。春からは大学院という新たなステージに進みますが、この4年間で培った探究心と専門スキルを武器に、さらに研究に邁進する所存です。最後になりましたが、これまで温かくご指導いただいた先生方、そして共に切磋琢磨した友人たちに心より感謝申し上げます。



## 「鹿児島大学でよかった」

鹿児島大学大学院農林水産学研究所・農林資源科学専攻  
森林科学コース 林政学研究室 修士2年

清水 浩貴

静岡を離れる時、「やっと家の窓から山（富士山）を見なくて済む」と喜びながら鹿児島に来ました。実際に鹿児島に住んでみると、家の窓から桜島が見え「また窓から山？（桜島）が見える」と嘆いたことを今でも鮮明に覚えています。当時は桜島が噴火する度に不安で、親から心配の連絡も来ていましたが、今ではすっかり慣れ、連絡も来なくなっていました。

鹿児島大学での6年間はとても充実していました。九州各地に遊びに行ったり、友達と朝まで飲み歩いたり、集中講義で岩手やドイツに行ったりと、鹿児島大学に在学していたからこそできたことがたくさんあったと思います。中でも、私が最も楽しんだことは「研究」でした。研究は、これまでの勉強とは違い正解が無く、「これまで明らかになっていないことを明らかにする」ことが魅力でした。

私の研究は、「鰹節や雑節のような節製品を作るために必要な広葉樹薪の生産構造と流通構造を明らかに

する」というものです。川上（薪生産者）がどのように薪生産をし、どうやって川下（節製品生産者）に広葉樹薪が渡り、節製品生産者側では薪の需要がどうなっているのかということ明らかにしてきました。具体的な行政のデータなどはないため、実際に節製品を作っている方や薪生産をしている方などに話を聞くことがほとんどでした。データからはわからないような話も聞くことができる機会が多く、貴重な経験ばかりでした。学部4年では鹿児島を舞台に研究をしていました。多い時には毎週1～2回枕崎市や指宿市に調査に行くこともあり、研究を始めたばかりの私には大変でした。修士課程では、熊本と静岡を舞台に研究することができました。県外での研究は大変でしたが、ご当地名物を食べたり、絶景スポットに行ったりと、旅行気分を楽しむことができました。

大学院の2年間を通して国内外様々な場所に行き、全国各地の大学の学生と出会うことができました。学部生の時には想像できなかったようなことも経験することができ、「大学院に進学してよかった」と心から感じています。

最後に、この場を借りて、これまで支え続けてくれた家族やこれまでご指導いただいた先生、日頃お世話になった研究室の皆様、諸先輩方や学兄に心から感謝申し上げます。



## 卒業にあたって

食料生命科学科 国際食料資源学特別コース  
食品化学研究室 学部4年

坂本 來那

2022年4月、私は農学部国際食料資源学特別コースに入学しました。高校生の頃の私は、「世界中の困っている人を助ける仕事がしたい」という思いでこのコースを選びました。しかし実際に入学してみると、当時抱いていたイメージとは大きく異なり、自分の関心と結びつかない講義も多く、大学を辞めたいと思うほど悩む日々が続きました。そんな中、2年生の夏に研究室選択の時期が訪れました。農業や水産業にはあまり関心が持てなかった私は、食品化学研究室の研究テーマの一つである「ワクチン」という言葉に強く惹かれました。幼い頃から持病の治療で服薬を続けていた経験もあり、医薬品への関心は人一倍大きかったからです。

2年生後期に食品化学研究室への配属が決まり、この出会いが私の人生を大きく変えました。知識や実験の技術がほぼゼロの状態から、宮田先生や先輩方に丁寧に教えていただき、少しずつ実験や研究の面白さを知っていきました。学びを深めるうちに医薬品開発への興味はさらに深まり、「この分野に携わりたい」という思いが明確な目標へと変わりました。3年生からの就職活動では、グローバル治験を含む多様な治験を専門とする企業に内定をいただくことができました。もし4年前の自分に『将来は医薬品開発に関わる仕事に就くよ』と教えてあげられたら、きっと信じられない顔をしただろうと思います。たとえ方法や道筋が当初の想像と違っていても、自分の原点であった「困っている人を助けたい」という思いに繋がる仕事に出会えました。この4年間を通じて、最初は関心が薄かったことでも諦めずに行けば、自分の大きな力となり、人生を拓くきっかけになることを学びました。今後も学び続け、より多くの人に貢献できる存在でありたいです。

## 恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報

- 【定年退職】** 樗木 直也 令和8年3月31日  
 (農学科 植物資源科学プログラム 准教授)  
 南 雄二 令和8年3月31日  
 (農学科 食品生命科学プログラム 准教授)  
 玉置 尚徳 令和8年3月31日  
 (農学科 食品生命科学プログラム 教授)  
 岡本 繁久 令和8年3月31日  
 (農学科 植物資源科学プログラム 准教授)
- 【退職】** 榮村 奈緒子 令和8年3月31日  
 (農学科 環境共生科学プログラム 動物生態学分野 助教)
- 【昇任】** 鶴丸 博人 令和7年4月1日  
 (農学科 食品生命科学プログラム 応用微生物学分野 准教授)  
 加治屋 勝子 令和8年3月1日  
 (農学科 食品生命科学プログラム 先端健康科学分野 教授)
- 【新任】** 新永 智士 令和7年7月1日  
 (農学部附属演習林 森林経済学分野 特任准教授)  
 山崎 陽 令和7年8月1日  
 (農学科 植物資源科学プログラム 施設園芸学分野 助教)  
 中林 ゆい 令和8年3月1日  
 (農学科 環境共生科学プログラム 昆虫利用・生物的防除学分野 助教)
- 【受賞】** (判明分のみ)  
 下川 悦郎 (林S44卒) 瑞宝中受賞 春の受勲 (2025.5.3)  
 湯之原 一郎 (園S53卒) 旭日小受章 秋の叙勲 (2025.11.3)  
 清水 浩貴 (大学院農林水産学研究科)、奥山 洋一郎 (環境共生科学PG)  
 2025.7.1 一般財団法人林業経済研究所研究奨励事業 (小瀧奨励金)  
 遠竹 真菜 (食料生命科学科)、濱中 大介 (農食産業・地域マネジメントPG)、  
 吉田 理一郎 (環境共生科学PG) 2025.9.1 第79回九州農業食料工学会例会 優秀ポスター賞  
 坂元 新 (大学院農林水産学研究科)、北原 兼文、藤田 清貴 (食品生命科学PG)  
 2025.9.4 日本応用糖質科学会2025年度大会 ポスター賞  
 石塚 美羽 (食料生命科学科)、藤田 清貴、北原 兼文 (食品生命科学PG) 2025.9.25  
 第47回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム 最優秀ポスター賞  
 岩田 知起 (大学院農林水産学研究科)、平 瑞樹 (環境共生科学PG) 2025.10.30  
 第106回農業農村工学会九州沖縄支部講演会 ポスター賞  
 伊瀬知 紗環子 (大学院農林水産学研究科)、奥山 洋一郎 (環境共生科学PG) 2025.11.29  
 林業経済学会2025年秋季大会 ポスター賞  
 松田 明子 (大学院農林水産学研究科)、平 瑞樹 (環境共生科学PG) 2025.12.12 2025年  
 度農村計画学会全国大会 優秀発表賞  
 山本 雅史 (植物資源科学PG) 2026.3.16 2026年度日本熱帯農業学会賞

## 物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名		
湯川 淳一	旧賛助	R.6.2.29	福岡市東区松崎 1-5-12		令嬢
齊藤 正夫	A.S.20	R.2.頃	千葉県八千代市勝田台 2-3-6-3-301		家族
原田 敏也	A.S.22	R.7.2.6	佐賀市水ヶ江 2-2-23		令嬢
山下 幸彦	A.S.23	R.7.2.17	鹿児島市草牟田 1-22-11		子息 幸七郎
山下 美好	A.S.24	R.4.3.27	神奈川県逗子市沼間 1-4-6 ボヌール東逗子 701		令嬢
大下 博正	A.S.25	R.6.6.14	山口県下関市椋野上町 6-35		令嬢 智子
宮崎 政和	A.S.25	R.7.9.17	東京都江東区南砂 4-12-10-1016		令嬢
八幡 正則	A.S.26	R.7.11.1	鹿児島市鴨池新町 29-9-16		子息 周朗
豊富 康弘	A.S.32	R.8.2.8	三重県松阪市嬉野上野町 1041-6		家族
古市 吉男	A.S.32	R.7.7.24	鹿児島市東坂元 1-20-10		夫人 恵美子
実藤 昭作	A.S.33	R.6.11.7	福岡市中央区福浜 2-5-8-821		子息
嶽崎 亮	A.S.36	R.6.8.3	鹿児島県南九州市知覧町永里 3780-76		家族
松本 浩二	A.S.36	R.6.5.24	鹿児島市唐湊 3-43-2		夫人
今屋 洋	A.S.39	R.7.7.1	鹿児島県日置市伊集院町徳重 3-3-13		夫人 一恵
堀切 俊幸	A.S.39	R.7.7.5	鹿児島市吉野町 5503-6		夫人 祐子
横山 和正	A.S.39	R.7.6.	滋賀県草津市若草 6-9-7		夫人 明子
岩猿 敬文	A.S.41	R.7.3.4	千葉県印西市木下東 3-10-1		夫人
西牟田 浩	A.S.41	R.7.12.2	鹿児島市桜ヶ丘 1-5-3		夫人
山下 侃	A.S.43	R.6.6.22	鹿児島市吉野町 2779-3		夫人
吉田 健美	A.H.4	R.6.3.10	福岡県北九州市八幡西区さつき台 1-4-1		夫人 みずこ
谷口 善次郎	F.S.22	R.6.5.28	福岡市城南区樋井川 4-14-4-201 号谷口のり子様方		姪 谷口のり子
那須 袈春	F.S.26	R.7.4.13	熊本市中央区水前寺 1-24-1-605		子息 二郎
宮嶋 晃治郎	F.S.35	R.7.4.3	熊本県葦北郡芦北町湯浦 1310		夫人
後藤 幸夫	F.S.36		広島市安佐北区亀山南 4-9-24		
近藤 隆一郎	F.S.46	R.7.3.24	福岡市東区香椎 1-2-28-308		夫人
山口 泰之	F.S.50	R.7.4.8	福岡県大牟田市不知火町 1-2-2-1101		夫人
福元 義人	S.S.36	R.6.12.30	滋賀県大津市日吉台 1-15-5		令嬢 由紀
中山 泰輔	S.S.42	R.5.2.2	福岡県みやま市瀬高町小川 280-3		夫人
岡田 信夫	C.S.24	R.7.4.22	鹿児島県始良市加治木町反土 730-35		夫人
藤嶋 哲男	C.S.31	R.7.4.17	鹿児島市上福元町 5897		夫人 マサ子
松原 弘一郎	C.S.36	R.7.2.1	鹿児島市吉野町 8744-16		夫人
高尾 忠行	C.S.38	R.6.5.8	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央 2-16-1 グリーンコーポ鶴見 402		子息 和孝
豊福 泰正	C.S.38		福岡県久留米市山川町 1299-1		家族
白水 康雄	C.S.40	R.7.2.1	福岡県糸島市志摩師吉 8-34		夫人 洋子
吉川 真由美	C.S.56	R.4.	福岡市東区唐原 4-12-28		夫君 英明
藏原 久輝	V.S.31	R.7.11.11	熊本市中央区水前寺 3-39-20		令嬢
郡山 基彦	G.S.36	R.5.11.7	大阪府豊中市春日町 5-7-1-617		夫人
安山 寿俊	G.S.36	R.7.1.	鹿児島市郡元町 5-6		令嬢 直木亭子
江藤 宰	Z.S.42	R.6.7.22	福岡県北九州市門司区大積北町 725-15		夫人
春口 勝光	E.S.50	R.5.9.16	鹿児島市鴨池新町 29-1-35		夫人
吉永 瑞代	H.S.59	R.5.3.	鹿児島市喜入瀬々串町 1662-5		夫君 圭輔

## 本 部 便 り

## I. はじめに

鹿児島大学農学部あらた同窓会では、令和6年度の活動および予算の総括並びに令和7年度の活動および予算計画を審議するために「令和7年度評議員会」および「令和7年度総会」を開催いたしました。

令和6年度の「学内幹事会」で決定して評議員会および総会で認められていた「学生幹事」制について令和7年10月に農学部農学科の4プログラムから2年生を各1名ずつ決定しました（新任「学生幹事」の紹介は9ページに記載）。今後のあらた同窓会運営に学生会員の視点を取り入れることにつながることを期待しています。また、令和6年度は、あらた同窓会総会に合わせて農学部

主催の「鹿児島大学農学部ホームカミングデー」を共催しましたが、令和7年度は「鹿児島大学農学部ホームカミングデー」は開催されませんでした。

「あらた同窓会報」については、全会員向けの春季号（3月25日発行）と主に学生会員向けの秋季号（11月23日発行）を併合し、3月25日発行の「あらた同窓会報」の年1回発行にしました。「令和7年あらた同窓会報」には過去秋季号に掲載されていた学生会員の寄稿も含めて、ページ数は多くなりましたが学生会員の情報も含めた同窓会活動を全会員に周知・広報しました。

今後も、「鹿児島大学農学部あらた同窓会」の活動がさらに発展し、卒業生および在学生間の繋がりがますます強化されることを期待しています。

## Ⅱ. 事業及び会計に関する報告

(会計年度：令和6年10月1日～令和7年9月30日)

### 1. 令和7年度総会 (令和7年11月23日開催)

○開催日：令和7年11月23日(日) 15:00～16:30

○場所：鹿児島大学 農・獣医共通棟101号教室

令和7年度総会は、300人収容の「農・獣医共通棟101号教室」で15:00～16:30に開催しました。出席者は54名でした。なお、例年総会に先立って行っていた「講演会」は準備不足により昨年同様中止にしました。

総会においては、下川悦郎会長(林S44卒)の挨拶および坂巻祥孝農学部副学部長の農学部長挨拶代読に引き続き、議長として岩井久氏(農S55卒)が選出され、岩井議長のもとで、下記の協議事項について事務局から資料にもとづき趣旨説明・提案を行い、審議の結果全て承認されました。

- (1) 令和6年度事業報告(案)について
- (2) 令和6年度の一般会計収支決算(案)、名簿特別会計収支決算(案)および功労者表彰特別会計収支決算(案)について
- (3) 令和6年度会計監査報告について
- (4) 令和7年度事業計画(案)について
- (5) 令和7年度の一般会計収支予算(案)、名簿特別会計収支予算(案)および功労者表彰特別会計収支予算(案)について
- (6) 会則改正(案)について
- (7) 役員交代・改選(案)について
- (8) その他

総会終了後、「ヴェジマルシェ'19」(稲盛記念館)に移動し、17:30～19:30まで昨年同様に懇親会を開催しました。総会及び懇親会の様子については本号11ページに詳細に記載してあります。

### 2. 令和7年度評議員会

令和7年度評議員会は令和7年11月5日(水)18時から「あらた記念館」において出席者24名で実施いたしました。下川悦郎会長の挨拶の後、会長が議長を務め、「評議員会」の目的(会則第14条2)である総会に付議するための下段の議題について協議をいたしました。

- (1) 令和6年度事業報告(案)、令和6年度の一般会計収支決算(案)、名簿特別会計収支決算(案)、功労者表彰特別会計収支決算(案)並びに会計監査報告について
- (2) 令和7年度事業計画(案)、令和7年度の一般会計収支予算(案)、名簿特別会計収支予算(案)、功労者表彰特別会計収支予算(案)について
- (3) 会則改正(案)について
- (4) 役員交代・改選(案)について
- (5) その他

協議の結果、いずれも異議なく総会に付議することが決定されました。

### 3. 学内幹事会

令和6年度の第1回学内幹事会は令和6年12月16日に対面で開催しました。議題は(1)「あらた同窓会報」の発行について、(2)卒業生・修了生名簿の作成について、(3)入会金の納入について(卒業予定の未納者)、(4)卒業祝賀会について、(5)新入生オリエンテー

ションと茶話会について、(6)学生向け講演会について、(7)同窓会総会および懇親会について、(8)学内幹事の補充、学生幹事制度の創設について、(9)学内会員の年会費納入方法について(預金口座振替(法定外控除)の廃止に伴う対応)、(10)その他でした。そこで協議された重要事項について詳細に述べます。

#### 3-1 「学生幹事」制の創設と開始

「あらた同窓会」の活動に学生会員の視点からの意見を加味して同窓会活動の改善に寄与することを目的として「学生幹事」制を導入することにし、令和6年農学部改組後の新生が2年生になり各プログラムに配属される令和7年10月から各プログラムから2年生各1名の推薦をお願いする。任期は2年とすることにしました。令和8年度には各プログラムから2名、計8名の体制が整う予定です。「学生幹事」には、令和7年度から「会報編集」や「学生向け講演会」等の企画・立案等に加わってもらい、学生視点からの意見を広く取り入れることになりました。

#### 3-2 学内会員(教員)の年会費について

「預金口座振替(法定外控除)」が令和7年3月で廃止されるに伴う学内会員(教員)の年会費の徴収方法について、学内会員(教員)が利用しやすい今後の納入方法について検討しました。

## 4. 会計監査

令和6年度の会計監査は、令和7年10月22日(水)に黒木譲二、菊川明及び地頭蘭隆の3監事によって実施され、本会の事業及び会計事務が適切に執行されている旨の監査報告書が下川会長に提出されました。

## 5. 会報の発行と送付数

年1回発行に変更した会報は、鹿児島大学の卒業式の日(3月25日)に「令和7年あらた同窓会報」として発行しました。春季号と秋季号を併合したため、総ページ数は表裏表紙を含めて52ページとなりました(従前の春季号は約40ページ、秋季号は約20ページ)。また、表裏表紙の写真については学生会員を含めて会員から募集することにしました。この結果、令和7年あらた同窓会報では「支部便り」、「会員からの寄稿(エッセイ等)」および「学生便り」が同一号に掲載されることになり、内容的にも充実した会報になりました。特に、「学生便り」については一般会員から好評でした。

「令和7年あらた同窓会報」は、「直近5年間の会費納入者」、「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」、「旧賛助会員」、「農学部教職員」及び「学生会員」に頒布しました。また、平成29年度評議員会および総会で承認された「あらた同窓会活動の活性化を図るために、可能な限り多くの会員に農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報などをお届けする」という趣旨で卒業後5(R.2卒)、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55(S.45卒)年を経過した5年毎の連絡先が判明している人の総計4,551人に送付・頒布しました。送付にあたっては、例年通り「会費納入振込用紙」を同封しました。なお、会費振込用紙を同封しない「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」および「旧賛助会員」等には、平成28年度以降と同様に同窓会活動の活性化に役立てるための「賛助金(寄付)」を募集しました。

## 6. あらた同窓会経理について

6-1 収入について：「あらた同窓会」年会費の納入者数は年々減少しており、鹿児島支部をはじめ各支部からの集団納入（一人あたり年会費2,000円のうち2割を支部交付金として還元するために本部には一人あたり1,600円納入）がほとんどですが、各支部の会員も減少している状況で、令和6年度の一般正会員の納入者は940名でした。一方、平成29年度以降「あらた同窓会報春季号」の送付時に、終身会員、80歳以上の会費免除者および旧賛助会員に「賛助金（寄付）」のご協力をお願いしています。

6-2 支出について：令和2年2月から「新型コロナウイルス感染症」拡大により、農学部卒業祝賀会や各支部の総会のほとんどが中止になった結果、支出が減少し、令和元年～3年度決算の繰越金が大幅に増加し、現在も繰越金が出る状況（黒字）になっています。しかし、今後「あらた同窓会」の活動をコロナ禍以前に戻し、学生会員に対する活動を活発にしていくことを予想すると、今後は収入より支出が多い「支出超過」となる可能性が高まっています。また、昨今の物価上昇などもあり経理的には今後さらに厳しくなることが危惧されます。

「あらた同窓会」事務局としても、これまで同様、合理的な経理運営を進めて行き経費節減に努めていますが、これまで以上に正会員からの「年会費」の納入率向上や新入生（学生会員）の「入学時納入金（入会金＋4年間の会費）」の納入率を上げる活動を強化する必要があります。これらについては会長、副会長および「あらた同窓会」顧問である農学部長や「学内幹事会」並びに「評議員会」および「総会」で協議・検討するとともに各支部と連携・協力して「あらた同窓会」活動の維持・発展・強化に取り組んでいくようにしたいと思います。また、鹿児島大学同窓会連合会を通じて各学部の状況を参考にした取り組みも強化したいと思います。

## 7.名簿の発行

「あらた同窓会会員名簿」は令和5年6月に発行しましたので当面は発行する予定はありません。「卒業生・修了生名簿」は学内幹事の多大な協力により、令和7年3月25日に500部発行し、卒業生、修了生、教職員に配布いたしました。

## 8.講演会

平成30年まで実施してきた総会の前に行う「講演会」および「学生向け講演会」は、令和2年以降の「新型コロナウイルスパンデミック」の影響でいずれも昨年までは開催できませんでした。今後の再開に向けて「時期」、「方法」、「講師」等について「学生幹事」を含めた「学内幹事会」で協議して行きたいと思っています。

## 9.地域支部等との交流

「あらた同窓会」本部では、地域支部や職域支部から役員派遣の要請を受けた場合、その支部総会に役員等を派遣して本学および学部や同窓会の近況を報告するとともに、会員との交流を図ることにしています。令和6年11月23日以降は、「熊本あらた会総会・懇親会」（令和6年11月29日および令和7年11月29日）、「広島あらた会」（令和6年12月1日および令和7年12月7日）、「福岡県庁あらた会」（令和7年2月1日）、「宮崎あらた会」（令和7年5月24日）、「関西あらた会」（令和7年5月25日）、「佐賀あらた同窓会」（令和7年7

月5日）、「あらた同窓会・鹿児島市役所支部」（令和7年10月10日）、に役員あるいは農学部教員を派遣しました。今後も、支部総会等の開催に伴う役員等派遣の要請を受けた場合、本部役員あるいは学部教員を派遣し、支部会員との交流を図るとともに、各地域支部の活性化をサポートします。それら総会・懇親会の模様については、速報を「あらた同窓会HP」（<https://aratadousokai.org/>）に随時アップしています。また、詳細については本号（「あらた同窓会報令和8年春季号」）の「支部・職域・クラス会・グループ便り」の項にも掲載しています。

## 10.会則改正について

平成7年度総会の議を経て以下の会則を改正しました。

### 第3章

（役員）

### 第6条（7）

（追加）学生幹事

（番号変更）（8）その他会長が認めた者

（役員を選任）

### 第7条 4項

（追加）学生幹事は農学部・農学科のプログラム等から推薦された学部2年生をもってこの任に当て、任期は2年とする。

（役員の仕事）

### 第8条 7項

（追加）学生幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・運営・実施等に関する事項について協議を行う。

（幹事会）

### 第15条

（追加）幹事会は、常任副会長、学内幹事および学生幹事をもって組織する。

### 附則

（追加）本会則は、令和7年11月23日より改訂施行する。

## 11.『鹿大「進取の精神」支援基金』への取り組みについて

鹿児島大学同窓会連合会の活動と連携して取り組んでいきます。

## 12.鹿児島大学同窓会連合会

鹿児島大学同窓会連合会の構成同窓会として、今後も開催される予定の「鹿児島大学ホームカミングデー」（鹿児島大学主催）には積極的に関与および参加し、鹿児島大学との連携の維持発展に貢献します。年3回ずつ開催予定の役員会および幹事会にも積極的に出席し、他学部同窓会との情報交換を活発に行うとともに、大学が行っている各種取り組みには可能な限りの協力を行います。同窓会連合会が発行している「鹿児島大学同窓会連合会報」には「あらた同窓会活動」について寄稿し、発行された会報は本部総会及び地域支部総会の出席者に頒布し、鹿児島大学および各学部同窓会活動の広報に寄与します。

## 13.その他

特にありません。

賛助金および寄付者ご芳名 (令和7年4月25日～令和8年1月5日)

学科卒年	氏名
旧賛助	青木孝良
旧賛助	岩井純夫
旧賛助	岩元泉
旧賛助	佐藤宗治
旧賛助	鮫島吉広
旧賛助	竹田靖史
旧賛助	田代正一
旧賛助	枚田邦宏
旧賛助	八木史郎
AS22	中村秀徹
AS22	春松高
AS24	城戸典弘
AS26	八幡正則
AS29	井上晃一
AS30	吉村之宏
AS31	福山見孝
AS31	山下良憲
AS31	和田誠男
AS32	中園和年
AS32	古市吉男
AS32	松澤宜生
AS34	神吉善茂
AS36	嶽崎亮
AS36	原田淳
AS37	清水博之
AS37	穂満弘己
AS37	山本明人
AS38	富永文治
AS39	山本公明
AS39	横山和正
AS40	日野耕一郎
AS41	上田史朗
AS41	北川良親
AS41	渡邊泰孝
AS42	泊東洋和
AS42	富岡忠勝
AS47	池端裕昭
AS48	水之浦孝
AS49	山村耕一郎
AS52	平井正明
AS53	三木洋二
AS56	三井寿一
AS57	小早川英明
AH3	西岡一也
FS22	木村義章
FS24	紀野武夫
FS29	中村金即
FS31	岩崎健生
FS31	松枝洋一郎
FS31	吉村一郎
FS34	川邊恭右
FS35	中山安宅
FS36	宮崎博之

学科卒年	氏名
FS39	西田孝義
FS39	早稲田正
FS40	高倉重昭
FS41	野崎政澄
FS42	津野瀬武久
FS44	遠矢良太郎
FS44	中原一郎
FS45	池本文雄
FS45	田口宏
FS46	北村良介
FS49	森田茂亨
FS59	永徳亨
FH4	堀智弘
SS29	佐伯幸雄
SS32	永峯隆
SS35	藤井行雄
SS36	大岩勝徳
SS38	渡沢博久
SS39	白石優一郎
CS28	市来秀夫
CS29	宇田川義夫
CS30	山口寛邦
CS34	上山誠郎
CS34	小川泰雄
CS34	堤将和
CS34	西迫順弘
CS34	長谷場彰
CS34	藤本滋生
CS35	木谷素直
CS35	黒阪聡介
CS36	前田滋
CS36	本村輝正
CS37	相庭繁行
CS37	伊地知亨
CS37	野上雅史
CS37	松尾茂久
CS38	竹添進
CS41	市来征勝
CS42	井川隼次
CS44	池邊雄二
CS50	西澤保孝
CS55	秋吉博之
CS58	松久保毅
CS59	宇都宮裕子
VS31	藏原久輝
VS32	奥田高夫
VS32	山名孝善
VS34	平野敏之
VS36	野村浩平
VS36	松元計士
VS37	大漣武徳
VS37	尾下泰彦
VS41	石黒茂

学科卒年	氏名
VS43	永瀬捷明
VS46	柳田興平
VS59	青木英晃
VS60	大沢一貴
VH16	神谷寿
VH20	片山真希
GS32	玉利道満
GS34	大六野貞雄
GS35	暁泰臣
GS35	窪田孟弘
GS35	丸山孝男
GS35	宮川良幸
GS37	市橋陰詩
GS37	川井田修
GS37	野上眞八郎
GS41	小野直達
GS41	布木岸男
GS41	山下洋
ZS42	江藤宰
ZS42	鳥丸勝海
ZS42	林健剛
ZS42	福元暢治郎
ZS42	前田芳實
ZS42	屋久正文
ZS48	内山正二
ZS53	河井達志
ES49	中村隆
ES59	上村一夫
HS48	富永茂人
HS49	上妻俊樹
HS51	原耕
HS56	空閑宏典
HS56	栗之丸隆太郎
HS56	児島三彦
HS59	中村秀人
AMS46	津山新一郎

鹿児島支部

あらた同窓会役員名簿

令和7年11月23日現在

Table with 2 columns: Position and Name. Includes roles like 顧問 (山本 雅史), 会長 (下川 悦郎), 副会長 (佐野 岩男, 田中 隆義), 監事 (黒木 譲二, 菊川 明), 学内幹事 (梶木 直也, 末吉 武志), 学生幹事 (辻江 元志, チン シエ), 評議員 (瀧川 憲洋, 大津 清司), and (役職指定) 各地域支部長, 農学部副学部長, etc.

令和6年度一般会計決算書

(令和6年10月1日～令和7年9月30日)

収入額 13,885,387円 支出額 4,386,573円 繰越金 9,498,814円

収入の部

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 増減, and 内容. Includes items like 会費 (4,180,000), 年会費 (2,000,000), 入会金 (1,780,000), 懇親会費 (400,000), 賛助金 (100,000), 雑収入 (100), 繰越金 (8,931,349), 繰入金 (2,000), and 合計 (13,213,449).

支出の部

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 増減, and 内容. Includes items like 会議費 (550,000), 総会費 (400,000), 役員会費 (150,000), 事業費 (2,620,000), 印刷費 (500,000), 卒業・入学祝賀会費 (800,000), 支部交付金 (200,000), 旅費 (250,000), 通信運搬費 (800,000), 講演会費 (20,000), 功労者表彰積立金 (50,000), 事務局費 (2,210,000), 役員報酬 (520,000), 賃金 (1,000,000), 備品費 (160,000), 消耗品費 (60,000), 光熱水費 (150,000), 通信運搬費 (200,000), 賃借料 (60,000), 慶弔費 (60,000), 会館修繕費 (0), 同窓会連合会分担金 (100,000), 雑費 (300,000), 繰出金 (300,000), 予備費 (7,133,449), and 合計 (13,213,449).

令和6年度 同窓会名簿特別会計決算書

(令和6年10月1日～令和7年9月30日)

収入額 2,263,824円 支出額 29,700円 繰越金 2,234,124円

収入の部

項目	予算額	決算額	増減
名簿代	0	0	0
雑収入	50	1,121	1,071
繰越金	1,962,703	1,962,703	0
繰入金	300,000	300,000	0
合計	2,262,753	2,263,824	1,071

支出の部

項目	予算額	決算額	増減
名簿作成費	50,000	29,700	△20,300
名簿購入費	0	0	0
印刷費	50,000	29,700	△20,300
通信運搬費	5,000	0	△5,000
予備費	2,207,753	0	△2,207,753
合計	2,262,753	29,700	△2,233,053

あらた同窓会資産表

令和7年9月末日現在

基金特別会計			
定期預金	鹿児島銀行	10,000,000円	
定期預金	南日本銀行	3,000,000円	
普通預金	鹿児島銀行	602,320円	
合計		13,602,320円	
一般会計			
普通貯金	郵便局	9,498,814円	
名簿特別会計			
普通貯金	郵便局	2,234,124円	
功労者表彰特別会計			
普通貯金	南日本銀行	218,686円	
総計		25,553,944円	

令和6年度 功労者表彰特別会計決算書

(令和6年10月1日～令和7年9月30日)

収入額 384,586円 支出額 165,900円 繰越金 218,686円

収入の部

項目	予算額	決算額	増減
繰越金	334,378	334,378	0
繰入金	50,000	50,000	0
雑収入	20	208	188
合計	384,398	384,586	188

支出の部

項目	予算額	決算額	増減
祝賀会費	30,000	24,000	△6,000
記念品費	200,000	141,350	△58,650
雑費	10,000	0	△10,000
予備費	144,398	550	△143,848
合計	384,398	165,900	△218,498

監査報告書

あらた同窓会令和6年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

令和7年10月22日

あらた同窓会

監事 黒木 謙二 (印)  
 監事 菊川 明 (印)  
 監事 地頭 蒼隆 (印)

あらた同窓会

会長 下川 悦郎 殿

鹿児島大学農学部あらた同窓会報(毎年3月25日発行)への「エッセイ」へのご寄稿のお願い

例年の「あらた同窓会報」には、「支部便り」や「クラス会・グループ便り」のご寄稿をいただいております。また、令和3年春季号から「エッセイ」コーナーを新設して、「支部、クラス、グループ等」以外の同窓生個人の近況、思い出、同窓会活動に対して思うこと等について会員からご寄稿いただき、同窓生同士の連携を図る場を拡充することにいたしました。この新しい試みに対して、これまで多くのご寄稿をいただき好評でした。本号にも多くのご寄稿をいただき厚く御礼申し上げます。今後も、積極的なご寄稿をお願い申し上げます。

ご寄稿の原稿(ワードなどの電子ファイル)と写真(jpgなどの電子媒体)で、毎年1月末日までに事務局にメールでお送りいただくか、「あらた同窓会HP」の【ご寄稿フォーム】(<https://aratadousokai.org/contribute/contribute-form/>、右QRコード)からご投稿ください。

※詳細については、下記事務局までメールまたは郵便でお問い合わせください。



事務局案内【事務局執務体制】

執務日：月、水、金曜日 10：00～16：00 TEL・FAX：099-285-8537

E-mail: aratakai@aratadousokai.org ホームページ：<https://aratadousokai.org/>

住所：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24



## あらた同窓会会報

## 令和7年度 一般会計予算書

(令和7年10月1日～令和8年9月30日)

収入額 14,285,814円 支出額 14,285,814円

## 収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	増減	
会費	4,480,000	4,014,000	466,000	
年会費	2,000,000	1,880,000	120,000	延べ 1,000名
入会金	2,080,000	1,898,000	182,000	新生 10,000円×(175名) 編入・修了生 3,000円×(10名) 在校生等 10,000円×(30名)
懇親会費	400,000	236,000	164,000	総会懇親会費(6,000円×50名) 同窓会連合会 懇親会費
賛助金	300,000	924,000	△624,000	賛助金
雑収入	2,000	4,839	△2,839	利子等
繰越金	9,498,814	8,931,349	567,465	
繰入金	5,000	11,199	△6,199	基金利子
合計	14,285,814	13,885,387	400,427	

## 支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	増減	
会議費	550,000	330,015	219,985	
総会費	400,000	263,083	136,917	総会懇親会費 会場費等
役員会費	150,000	66,932	83,068	評議員会、幹事会、会計監査
事業費	2,620,000	1,796,437	823,563	
印刷費	500,000	492,620	7,380	令和8年会報
卒業・入学 祝賀会費	800,000	219,350	580,650	卒業祝賀会費・新生 茶話会費
支部交付金	200,000	148,800	51,200	各支部へ
旅費	250,000	217,460	32,540	支部総会出席等
通信運搬費	800,000	668,207	131,793	会報送料、振込手数料等
講演会費	20,000	0	20,000	講師謝礼等
功労者表彰 積立金	50,000	50,000	0	令和7年度積立金
事務局費	2,630,000	1,730,121	899,879	
役員報酬	550,000	520,000	30,000	常任副会長・ 学内幹事・学生幹事
賃金	1,000,000	829,406	170,594	給料等
備品費	500,000	0	500,000	パソコン(2台)
消耗品費	60,000	7,824	52,176	事務用品等
光熱水費	200,000	154,515	45,485	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	161,286	38,714	フレッツ光ネクストF集 +BIGLOBE利用料、切 手・ハガキ等
賃借料	60,000	57,090	2,910	会館建物使用料
慶弔費	60,000	0	60,000	祝電、弔電等
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	300,000	130,000	170,000	
繰出金	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
予備費	7,785,814	0	7,785,814	
合計	14,285,814	4,386,573	9,899,241	

## 令和7年度 同窓会名簿特別会計予算書

(令和7年10月1日～令和8年9月30日)

収入額 2,534,624円 支出額 2,534,624円

## 収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	増減	
名簿代	0	0	0	
雑収入	500	1,121	△621	利子
繰越金	2,234,124	1,962,703	271,421	
繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
合計	2,534,624	2,263,824	270,800	

## 支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	増減	
名簿作成費	50,000	29,700	20,300	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	50,000	29,700	20,300	卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	0	5,000	
予備費	2,479,624	0	2,479,624	
合計	2,534,624	29,700	2,504,924	

## 令和7年度 功労者表彰特別会計予算書

(令和7年10月1日～令和8年9月30日)

収入額 268,886円 支出額 268,886円

## 収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	増減	
繰越金	218,686	334,378	△115,692	
繰入金	50,000	50,000	0	令和7年度積立金
雑収入	200	208	△8	利子
合計	268,886	384,586	△115,700	

## 支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	増減	
祝賀会費	0	24,000	△24,000	
記念品費	0	141,350	△141,350	
雑費	0	0	0	
予備費	268,886	550	268,336	
合計	268,886	165,900	102,986	

## 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

- 第1章 総則
- (名称)  
第1条 本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。
- (目的)  
第2条 本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部発展に寄与することを目的とする。
- (事業)  
第3条 本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。  
(1) 会報及び会員名簿の発行  
(2) 農学部との連携及び協力  
(3) その他必要と認められた事項
- (支部)  
第4条 本会は、支部を必要な地に置くことができる。
- 第2章 会員
- (会員)  
第5条 本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。
- 正会員  
鹿児島高等農林学校卒業者  
鹿児島農林専門学校卒業者  
鹿児島大学農学部卒業生  
鹿児島大学大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受けた）修了者
- 学生会員  
農学部及び大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受ける）に在籍する学生
- 賛助会員  
現賛助会員（現職教員）  
旧賛助会員（退職教員）
- 2 会員は、住所等に異動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。
- 第3章 役員等
- (役員)  
第6条 本会に次の役員を置く。
- |                  |     |
|------------------|-----|
| (1) 会長           | 1名  |
| (2) 常任副会長        | 1名  |
| (3) 副会長          | 3名  |
| (4) 評議員          | 若干名 |
| (5) 監事           | 3名  |
| (6) 学内幹事         | 若干名 |
| (7) 学生幹事         | 若干名 |
| (8) その他会長が認められた者 |     |
- (役員を選任)  
第7条 会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。
- 2 評議員は、各地域支部支部長、農学部副学部長、農学部学科長、各プログラム長及び幹事会が推薦した者、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。
- 3 学内幹事は農学部の各学科・コース及びプログラム等から推薦された者をもってこの任に当てる。
- 4 学生幹事は農学部・農学科のプログラム等から推薦された学部2年生をもってこの任に当て、任期は2年とする。
- (役員の仕事)  
第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。
- 2 常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 4 評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
- 5 監事は、事業実績並びに会計の執行状況の監査を行い、その結果を総会に報告する。
- 6 学内幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。
- 7 学生幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・運営・実施等に関する事項について協議を行う。
- (役員の仕事)  
第9条 総会で選任された役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の仕事は前任者の残任期間とする。
- (名誉会長及び顧問)  
第10条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。
- 2 名誉会長は会長が委嘱する。
- 3 農学部長は本会の顧問とする。
- 4 名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

- 第4章 会議
- (会議)  
第11条 本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。
- (総会)  
第12条 総会は、第5条第1項及び第10条に掲げる者をもって組織する。
- 2 総会は、次に掲げる事項を審議する。  
(1) 役員を選任に関する事項  
(2) 事業計画及び事業報告に関する事項  
(3) 予算及び決算に関する事項  
(4) 会則の改廃に関する事項  
(5) その他会長が必要と認められた事項
- 3 総会は、会計年度開始から2ヶ月内に会長が招集する。
- 4 総会の議長は出席者の中から選出する。
- 5 議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- (臨時総会)  
第13条 臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。
- 2 臨時総会の議長は選出並びに議決は前条の規定によるものとする。
- (評議員会)  
第14条 評議員会は、会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事をもって組織する。
- 2 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。  
(1) 総会に付議すべき事項  
(2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項
- (幹事会)  
第15条 幹事会は、常任副会長、学内幹事および学生幹事をもって組織する。
- 2 幹事会は、次に掲げる事項を協議する。  
(1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成  
(2) 本会が行う業務の具体的執行計画等
- 第5章 会計
- (経費)  
第16条 本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。
- 2 正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。
- 3 学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。
- 4 年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。
- (会計年度)  
第17条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。
- (監査)  
第18条 監査は、会計年度ごとに行う。

- 第6章 事務局等
- 第19条 本会の事務を処理するために事務局を置く。
- 2 事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。
- (雑則)  
第20条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

## 附則

- 本会則は、昭和28年12月12日より施行する。
- 本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、令和元年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、令和5年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、令和6年11月23日より改訂施行する。
- 本会則は、令和7年11月23日より改訂施行する。

## 覚書

- 1 過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。
- 2 あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、5年毎に行う。

## 編集後記

年1回（3月25日）発行の「あらた同窓会報」には「支部報告や支部だより」の他、「会員からの寄稿（エッセイ等）」および「学生便り」など多くのご寄稿をいただくようになり、嬉しい悲鳴をあげています。昨年発行の「令和7年あらた同窓会報」から、秋季号（学生会員向け会報）と春季号（学生会員を含む一般会員向け会報）の年2回発行から両者を「あらた同窓会報」に一本化して、学生会員の日頃の活動状況等を一般会員にもお伝えすることになり、総ページ数と印刷経費は増加しましたが、出来上がった「あらた同窓会報」は多様性に富むバラエティー溢れるものになっていると評判は上々です。「学生便り」も研究内容、インターンシップ、留学体験など多様な現代の学生生活について述べてあり、年長の同窓生から見ると自分たちの学生時代との違いが分って興味深いものになっているものと思います。そして、このことが一般会員からの寄稿（特に自分の生活に基づくエッセイ等）の増加につながっているのかもしれない。昨年に引き続き、今年もこのような同窓会報を会員の皆様にお届けできることはひとえに一般会員や学生会員の皆様のご協力によるものと感謝しています。また、学生会員からの寄稿やその後の編集にあたっては農学部の先生方、特に学内幹事の先生方のご支援が大きく、心からお礼申し上げます。

この「あらた同窓会報」の発行が、あらた同窓生の学年を越えた連携とあらた同窓会の今後の発展に繋がっていくことを期待しています。どうぞ、今後ともご支援をお願いいたします。

（文責 あらた同窓会常任副会長 冨永 茂人）

### 鹿児島大学農学部 あらた同窓会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL・FAX 099(285)8537

e-mail: arataikai@aratadousokai.org

ホームページ: <https://aratadousokai.org/>

振替口座 02010-2-876

事務局の業務日 月・水・金(10:00~16:00)

印刷所 株式会社鹿児島新生社印刷  
住所 鹿児島市七ツ島1-3-21  
TEL 099-261-0111  
FAX 099-261-3100  
E-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp

農学部学生の実習や課外活動に関する写真（応募写真）



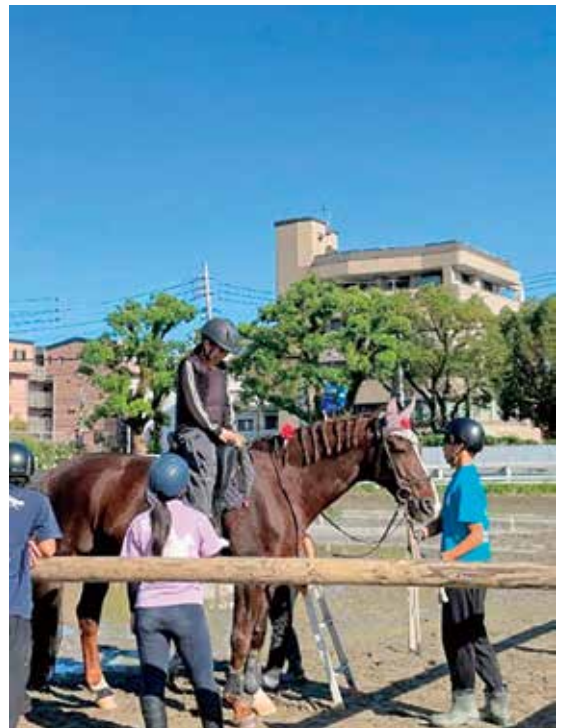
ナスとオクラの収穫作業 学内農場  
(2025年6月20日 信島 拓志氏撮影)



暖地農場実習 指宿植物試験場  
(2025年3月11日 海野 礼夢氏撮影)



林業現場見学 鹿児島市宮之浦町  
(2025年12月3日 信島 拓志氏撮影)



大学祭の様子 鹿児島大学馬術部馬場  
(2025年11月14日 海野 礼夢氏撮影)



武岡台からみた桜島（2026年元旦 酒瀬川 洋児氏撮影）